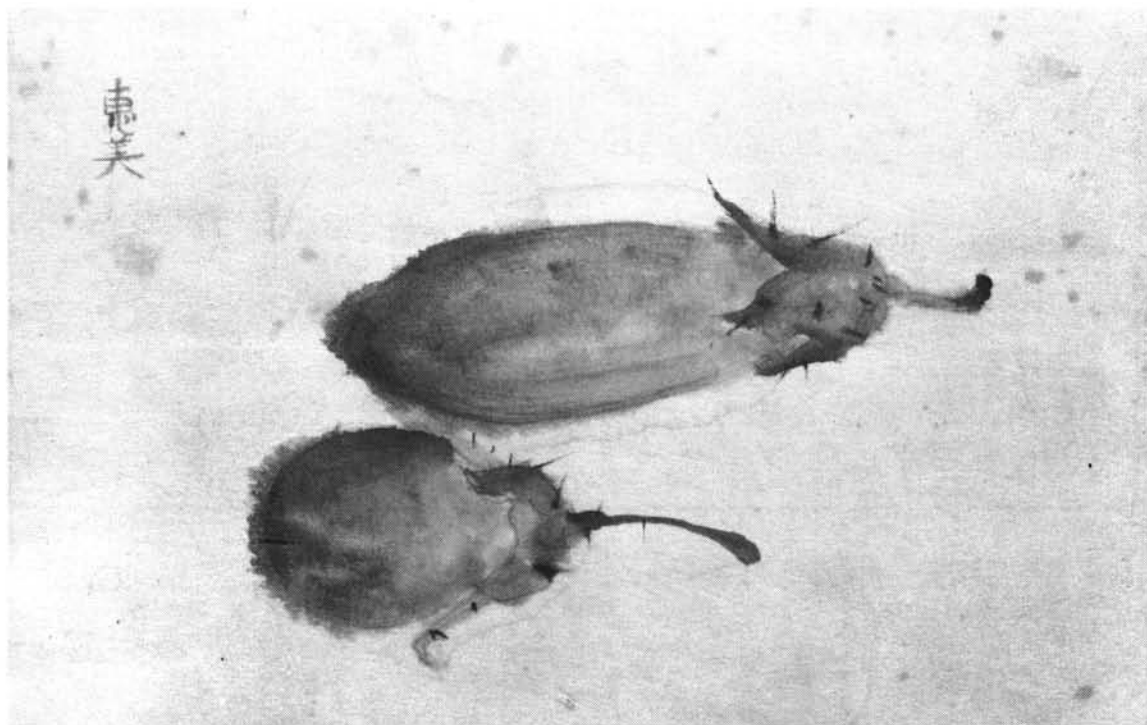


# あしふ

136号

1975 7・8

合併号



## もくじ

### 【特集】

アンケート（回答41～65）……………

2

### 【社会の窓】

我家のボーイフレンド騒動……久代 節子  
近況……………杉本 嘉子

13 12

### 【文芸】

白<sup>ゴ</sup>花……………能勢はつみ  
ある青春（37）……………津堂 健治  
くま先生と子どもたち……………杉本 輝子

21 18 15

### 【お便り】

大角田鶴子……………  
高宮 みか……………

21 14

表紙絵の言葉……………平田恵美子  
編集後記……………高木由利子  
例会の御案内……………

16 26 17

ア

ン

ケ

ー

ト

わいふ創刊当時（昭和38年10月）から  
現在までのあなたの生活の変化について――

- ①年令（現在の）
- ②家族構成の変化
- ③職歴の変化
- ④住所変化の有無・回数・理由など
- ⑤身体的変化（体重・視力など）
- ⑥読書傾向の変化
- ⑦12年間において、一番印象に残った私的な出来事と、社会的な出来事を各一つずつ
- ⑧12年間で、自分が一番変わったと思われる面と、全く変わっていないと思う面について
- ⑨12年前、一番望んでいたことと、その結果。  
今、一番望んでいることと、その展望
- ⑩「わいふ」との出会いはいつで、そのきっかけは？
- ⑪「わいふ」に入会して良かった点について
- ⑫「わいふ」に不満だった点について
- ⑬「わいふ」から影響を受けた点があれば具体的に
- ⑭「わいふ」廃刊後のあなたの計画は？
- ⑮もし「わいふ」のような雑誌を、今後続けていこうという方があった場合、誌代の値上げ、その他の悪条件がかりにあったとしても参加する意志がありますか。

【回答41】

- ①39才
- ②夫婦2人だけ→子供2人が増加（現在小学生）
- ③38年夏に12年余勤めた仕事（労組専従書記）を出産を控えて退職。以後、無職・主婦専業を続けること8年。46年春より現在まで丸4年間、近所で週5日の勤務（印刷所）
- ④主人の転勤により兵庫→東京→埼玉→兵庫と3回の転居。
- ⑤自分では特に意識はしないけど、やはり一般的老化現象らしきものはあるんじゃないかな……。体重は運動不足のせいかな、かなり増加。視力は全く良好。
- ⑥勤めていた頃は図書購入の係もしていた関係上、あらゆる分野の本によく目を通したが、退職後はなかなか本代にまで手がまわらなかつたし、子育てにふりまわされて疎かになった時期もあった。最近では、評判になった本をポツポツという所です。
- ⑦私的には、最初の子供の出産だと思う。当り前のことだが自分が親となつてはじめて親の恩というより苦労が身にしました。  
社会的には……いろいろあったが過去のことに比べると感激やショックもどうしても薄くなつてしまふ。その点、ベトナム戦争の終結は、生々しく記憶に残っている出来事です。それと連合赤軍事件で自殺した若者は高校・大学とも後輩になり、顔は知らなくても同じ学舎を出た者として複雑な心境でした。
- ⑧以前はもっと何に対しても情熱と意欲があつたようですが……、今は平々凡々、妥協と忍耐（？）で反抗の精神は何処へ。  
怠けものである先天的なものは変わりませんね。もつとも、自分に出来ることは最大限の努力をしたいという気持と態度は持ち続けていると思う。
- ⑨〇何しろ退職したくなかつたが、子供の保育のことを考えれば辞めざるを得なかつた。だからなるべく早い時期に元の仕事につきたかつた。しかし特技を持たぬ中年婦人の再就職の壁は厚かつたし、私自身、家庭のぬるま湯から抜け出す気概が失せて行つた。  
〇現実をみつめれば特にない。しいて言えば、一日も早く子供から解放されたい。
- ⑩42年頃、すすめられて会員になつたが、当時のグループでの交遊に忙しう、「わいふ」は読手専門だつた。4年前に再入会し、現在に至る。
- ⑪〇個性溢れるいろんな人と知りあえたこと。  
〇書くことに億劫がつてばかりおれなかつたこと。
- ⑫「わいふ」に不満だった点は裏返せば「わいふ」の良い点であり、それがために12年間も続いた一因にもなるのだから……。  
〇思想性があるようではなかつたこと。  
〇一つの投稿に対する賛否の表明、反響が極く少なかつたこと。  
〇しかし「私の受けた教育」や「母親が外で働くこと」の二大特集号を発行できたのも多方面にわたっている「わ

いふ」会員ならではのことであり、大いに評価されるべきでしょう。

⑬会員の多くは勉強家であり、刺戟を受ける機会が多かった。それに伴って本を読んだり、怠惰な自分を反省することができた。

⑭未定。

⑮未定。



【回答42】

①36才

②長男長女、四大家族となる。

③主婦専業から三年前住宅会社の事務員となる。

④山口県から岡山県へ主人の転勤で移る。

⑤あまり変っていない。

⑥相変わらず乱読。五年前、小学校の読書会に参加して本を多く読む様になった。

⑦OPTA役員としての三年間、その中でも特に人間関係。

○公害問題。

⑧変った面―人生に対する価値感と、むかしは事のとさきを考えず世話好きだったが、この頃あたりからさうならず無難な方を選ぶ自分におもわず「いやだなあ」と感じる時がある。成長したのでしょうか。

変っていない面―相変わらずそっかし

くて忘れっぽいこと。

⑨子どもが大きくなって育児に手がかからなくなったからお金をためて私だけの

小さなお店(花屋さんお茶(販売)屋さん、喫茶店)が持たたい、そんな夢

を持っていました。でも諸物価高騰で

とてもとても毎日の生活に追われて。

⑩49年2月、朝日新聞の婦人欄で記事を読んだので早速申込みました。

⑪育児からある程度解放され生活も安定した時、「いったい自分は何を生きがいに今日も生きているのか」こんな疑問がふつと頭をかすめた経験をお持ちの方が大ぜいいらっしやと思います。

私もその一人、こんな時ワイフが力づけてくれるのです。

⑫せっかくワイフの仲間いりが出来て喜んでおりましてのに、あと数カ月で廃刊になることがとても不満足です。

(私自身書くことに参加出来ず、受身だった点を反省しています)

⑬たくさんあります。なかでも山崎朋子氏を知ったことは大いなる収穫です。

「火種はみずからのむなもとに」、「サングラカン八番娼館」すばらしかったです。日比野都氏、もし近くで講演をなさる様なことがあればなにをさせておいても話を聞きに行きたいと思っています。

⑭別に具体的に考えていません。

⑮参加したいと思っています。

★

【回答43】

①41才

②夫婦2人↓長男(10才)長女(2才)が増えて4人。

③主婦業兼学童預り 1年。主婦業兼乳児保育 1年半。

その他なし。

④4回、主として主人の転勤。

⑤体重46↓49kg

視力右0.2左0.4↓最近の視力は不明。

白髪増加の一途。

⑥子供が産れてから育児書が増える。活字は好きな方だから乱読。

⑦私的には主人の転勤。

社会的には、永田洋子をはじめとする一連の赤軍派事件。

⑧変った面―行動範囲が主人と子供のかかわりあいのみに限られた事。

⑨12年前に一番望んでいたこと―望んだ男性と結婚して、欲しいと思う時に子供が産めて生活出来る世の中だと、どんなにすばらしいことだろうと思った。

その結果は？ 結婚6年目の高年出産で長男誕生。ミルク代を出すのに主人の給料だけでは苦しい日々でした。しかし、池田首相の高度経済成長に乗って、確かに給料は倍増したけれど、モウレツ(?)主人の到来で家庭団らんをこわされた。

今一番望んでいること―主人共々健康で精神的にゆたかな老後をすごしたい事。その展望は、家族全員が健康であれば叶えられるかも。

⑩昭和40年、現在兵庫県会議員の山村チヅエ女史の紹介

⑪「わいふ」を支えている友人は、他では発見出来ない素晴らしいものを持っていらっしゃる。

⑫「わいふ」の中身にはなし。敢えて申せば続けられなかった点。

⑬〇ともすれば忘れがちな書く姿勢を呼び戻された事。

⑭働く婦人の前向きな生き方に刺激を

受けた事。

○ありふれた日常生活の描写の中からも共通点を見出し、希望が持てたこと。

⑮なし。私のような人間でも引張って下さい。

⑯参加大いに希望します。

★

【回答44】

①42才

②家族構成の変化―夫・私の二人から、夫・私・長女・長男の四人へ。

③中学校教師―実家の塾手伝―図書館司書―家庭教師(現在も)

④有、2回。

一回目は子供が生まれて一DKではせますぎたから。二回目は家賃が高くて苦しかったから。

⑤特に目立った変化なし。二人目を産んで一時太ったがまた減って元通り。持病の痔が悪化の一途をたどっていることと、以前にも増して睡眠不足に弱くなったのが、変化になりましたか。

⑥変化なし。もっとも、新聞を読むのがやつの日が多い。

⑦私的―お産、お産とはこんなにも感動的で美しいものだとは知りませんでした。(子育ての方はしんどさの方が楽しさを上まわっています。年のせいでしょうね。長男は39才の時に生まれました。)

⑧社会的な出来事―水俣病に代表される企業悪の問題。石牟礼道子さんの「苦海浄土」は強烈でした。

⑨変った面―以前は自分の命を軽く考えていました。夫に万が一先立たれるよう

な事があつたら、私も死んじやおうな  
なんて簡単に考えたりして。でも今はも  
っと大事に生きなくては、と思います。  
これは年とって生んだ子供の為ばかり  
ではありません。

変っていない面

1、人間が好きなこと。俗物が嫌いな  
こと。(自分の中の俗物根性も含めて)  
2、あらゆる欠点。短気で、気が小さ  
くて、ひがみっぽくて、時間の観念が  
なくて、その他いっぱい。

⑨一生、外に出る仕事をしたいと思っ  
ていました。中学校の教師は良い仕事  
でしたが、体力的にぎり／＼で続きそ  
うにないと考え、図書館司書に転職し  
ました。あたかも、結婚して十年目。

この頃、降って湧いたように妊娠しま  
した。それで採用されて早々に、つわ  
りがひどくて休んでばかり。体よく首  
になりました。体力的には益々駄目な  
のですが、もういっぺん仕事を持ちた  
い、それもやっぱり教職にと悪アガキ  
しています。勝手な夢を述べるなら、  
夜間中学の教師になること。でもこれ  
は夢のまた夢、とうてい無理です。高  
校の時間講師になることがもう少し小  
さくなった夢、というところです。

⑩39年頃でしたか。以前、中心的メンバ  
ーの一人として活躍しておられた草刈  
土岐子さんの紹介で。

⑪他では読めないものを沢山読ませて頂  
きました。ひたむきに生きる方々が多  
いことを知って、力強く思いました。  
書けば載せて頂ける、という開かれた  
門の存在は貴重でした。でも忙しくて

しんどい毎日で書きたい事をかかえた  
まま時が走って行くにまかせていた事  
本当に申しわけなく思っています。

(今夜は晩の後片付けをみんな主人に  
やってもらってペンを走らせている有  
様。明日が6月末日ですから、朝、速  
達で書きなくては、間に合えばいいけ  
れど。)

⑫「不満足な点」なんて言えた義理では  
ありませんが、一九七三年の一一五号  
を読んだ強いショックを受けたことが  
あります。それについて書きたかった  
のですが、乳飲み子に追われる毎日で  
とうとうそのままになってしまいました。  
た。「わいふ」最後の年にこれだけは  
そのうち書かねばと思っています。出  
来ればこのアンケートのこの項へのお  
答えとして書きたかったのですが、時  
間的に無理です。後日に致します。

⑬私の参加の仕方が不十分だったので、  
影響される所までは行きませんでした。  
⑭「わいふ」廃刊と直接関係はないので  
すけれど、今受けている中津燎子さん  
の発音訓練をなんとかものにして、教  
師としての職場を見つけ、又職場での  
仲間を見つけて行こうと思います。夫  
の職業が夜の仕事で、この訓練も夜に  
ある為、週に一回ですけれど、子供二  
人を夜人に頼んで出ることが今の私に  
とっては大仕事なのです。今年一年、  
これをやりとげる、これが目下の私の  
一番重要な課題です。

⑮参加する意志はあります。

★

## 【回答45】

①41才

②変化なし 夫、子供2人。

③パート

④一回。40年10月2日、アパート一間住  
いでしたので、長男の小学校入学まで  
にと考えてやっと二階建ての二軒長屋  
に入りました。現在は二階は子供達が  
使い何とかやっていますが、風呂も欲  
しいし庭も欲しいし、食事がゆつくり  
出来る部屋が欲しいとせまさが気にな  
っています。これ以上の家に変えるこ  
とは考えられません(経済的に)ので  
あきらめています。家庭とは家に庭  
があつてこそ家庭になるのではないで  
しょうか？

⑤小さい頃から扁桃腺が大きいのと頭痛  
持ちなので子育ての間でも大変苦労し  
ましたが、夫が良くしてくれたので何  
とかやって来しました。41年頃から新聞  
配達をする様になってからだんだん丈  
夫になり、今年は風邪も引かずすみ  
ました。やはりたんと責任感から  
でしょうか？雨の日風の日はとてもい  
やでしたが今は新聞少年達早くから  
仕事する多くの人々のことがわかり頑  
張っています。

⑥たくさんは読む時間がないので読めま  
せんが大好きです。傾向はどうしても  
必要にせまられたものを読むことが多  
いように思います。若い頃は自分の生  
きる道、思想形成に役立つような本、  
今も時間的にゆとりがないので、そ  
うなりがちです。読書会などは一般的  
な本を読めたので大変良かったと思いま



す。身近な人と今読書会を計画して  
いますが、みんなむずかしいと思われ  
てケイエンされています。

⑦社会的にも私的にも子供を育てながら  
その時その時の出来事みんなが重大で  
あり、なやみであり、くるしみやよろ  
こびであつたと思います。そしてそれ  
を真げんに受けとめることによってわ  
ずかながらでも前進して来たと思いま  
す。個人的な幸せの追求では真の幸  
せのないことがわかつて、母親運動、新婦  
人運動をして来ましたが、これからも  
続けるつもりです。

⑧外面的にはこれと変らないと思いま  
すが、長い間大ぜいの人達と接し活動し  
経験する中で世の中を知り人を知り心  
の広い人間になれたと思います。そし  
てそのことで又少しでも人のためにな  
れることはうれしいと思います。

生来の気質、まじめで正義感が強く世  
話好きで……今の世の中では一つも得  
にならないのに……これだけは少しも  
変らないから、こうした運動ははなれ  
られないのかも知れません。

⑨子供が健康で明るく／＼と成長し  
てくれること。今は根っからの丈夫でな  
いので(体つきは頑丈だけれど)自分  
でそれを承知の上で健康管理を自分で  
出来る様になって来たのでまあ／＼と  
思っています。

今一番望んでいること、現実的にはあ  
りすぎて、又展望もむずかしすぎるの  
で止めます。夢でも……一カ月ぐら  
い何もかも忘れて旅行をしたいと思いま  
す。

⑩「私の受けた教育」一〇〇号特集を新聞で見た時、私も小学二年で戦争、六年終戦、戦後の混乱に中学を終えたので強い関心を持っていたので、ぜひよんでみたいと思ったわけです。

⑪いろいろの人達の、立場の異った方達の意見を聞くことが出来て、感動したり励まされたり、又、考えさせられたり、多くの方達の意見がきかれる事がよいと思います。

⑫別にありません。中心になって長い事お世話下さった皆さんに心から感謝と敬意を持っています。考える事書きたい事たくさんあっても仲々書かなかつたのは、きつとみなさんに甘えていて「わいふ」は会員一人／＼が支え作っていくという責任と喜びを軽く考えていたんだと反省しています。毎日の自分の生活に追われているのと集会に行けないのが残念でした。廃刊に関してはあまり言えませんが、みなさんの意見を聞く時間が欲しかった様に思いますが、編集の方々の御苦労は良くわかりますが、私も今新婦人ニュースを週一回出しています。とても大変ですが、これによって会員さんが少しでも理解を深め向上して下さることを願っています。今の社会ではほんとうにこうした活動がどれほど苦しく又大切であるかと思っています。どうか廃刊にしても道がひらけます様、願っています。

#### 【回答46】

①29才

★

②一人から三人へ

③学生・教師・主婦専業

④結婚のため札幌から高槻市へ。

⑤あまりなし。

⑥変化なし。

⑦私的↓教師になった時

社会的↓ケネディ大統領暗殺事件

⑧変った面↓特になし。

⑨結婚しても仕事を続けたいということ。結果としては退職、主婦専業になる。

⑩朝日新聞に掲載されたのがきっかけで、ちょうど一年前になる。

⑪色々な人の心からの意見又は考え方を聞くことが出来る。

⑫特に不満点はないけれど書く題材を、月によりしばった方が良かったかもしれない。

⑬特になし

⑭特になし

⑮参加する意志あり。

#### 【回答47】

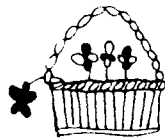
①35才

②それまでの親子五人家族から45年結婚により、現在親の方になつての三人家族。

③38年より45年結婚まで東京にて設計事務所勤務。結婚と同時に無職。

④大学生活より結婚まで東京都内で三回理由は、広さが必要として。結婚と同時に現住所（奈良）

⑤視力が落ちたこと位（奈良へ来てから



テレビの見過ぎ）グータラすぎているので。

⑥結婚によりのおんぼりしたのはほんの生活をはじめ、むずかしいのをためらう様になつていくこと。

⑦私的↓出産

社会的↓ベトナム戦争

⑧本質は全然変つていないと思いますので、小さい頃より知っている夫との生活によりわがままをそのまま出している生活がはじまっていることが変つて来たと思う点です。それに白髪がいつぱいの、若いということから遠くなつたこと。体力がなくなつたこと、淋しいことです。

⑨一人前の建築士になつて、そして夫との生活をも思っていましたので、一応一つの区切りと思う位納得して結婚したのです……が、出産、育児というのは建築の仕事よりもめんどうくさくて、フーフー言つてますが、子供（4才）が自己主張する此頃、又仕事をはじめたくなつています。まだ先は何もみえない状態です。

⑩朝日新聞紙上で。

⑪いろいろな人がいるという事を知つたこと。

⑫特に不満という事はありません。ただ「わいふ」という文字から受ける感じが、何かしら自分たち仲間の城を築いている様に思えました。「わいふ」でなければ廃刊にならないのでは？

⑬母親というものは子供の教育に相当のエネルギーを使うものだと思ひしたこと。影響をうけたこととは違ふことか

もしませんが、娘がもう少し大きくなつたとき、わかることだと思ひます。

⑭特になし。東京都知事の例もあることすし、廃刊という文字がどこかで消えることを望みます。亀山利子様の意見大賛成。

⑮はい。私は現在婦人雑誌といわれる雑誌は一冊も購読しておりません。「わいふ」が唯一の私の中の婦人雑誌です。で、誌代が廃刊に関係するとは考えたくありません。それではあまりにも主婦すぎます。淋し過ぎます。

#### 【回答48】

①36才

②子供3人（11才、6才、3才）

③なし

④災害対策と子供部屋の為に将来は別居できる為に敷地内に小住宅建設。

⑤あまり変化はないと思ひているが、身軽く動けなくなつたようです。

⑥老人問題、健康、人生に関するものが多くなつた。

⑦昨年夏、家族で鳳来寺山へ行き台風後の山道を歩いて子供達の体力が出てきた事に感心し、末の子は、全部ががんばらなかつたが、この後毎月一回10km位のハイキングに出かけて今では歩き通せるようになった事、歩く事のよさと自然の大切さを身にしみて感じている。

ベトナム解放。わいふ入会の際、岡村昭彦著「ベトナム戦争従軍記」を誌上で紹介され印象深かつたし、その後、反戦集会や支援のカンパ等、少々やつたり、戦争がなくなる事を切に望んで

いたので、わいふ終了の年にベトナム解放が実現したことに感慨がある。

⑧将来のことを考えるようになった。考えるだけで実行力がなかなかないこと。

⑨親が死んでも子供が安心して成長できる世の中になること。

大気汚染、自然破壊、食品公害、大地震、日本沈没？　ますます不安です。

誰もが安心して暮せる世の中になること。日々の自分達の生活につながる政治に、みんなが関心をもつて行動に移し、大多数の人の為になる政治が行われるようにがんばらなくてはと思う。

⑩「暮しの手帖」の松田道雄氏の手帖で知り、その当時の私の思っていたことに、合っていると感じた。

⑪積極的に考え行動している人達が多勢いて、自分の周囲の人達からだけでは得られない影響をたくさん受けたこと。

⑫誌上だけのことから当然ながら、率直に話し合えないこと。

宝塚市近辺のわいふ仲間の集りが、うらやましく思う。

⑬一人で、どんなに立派なことを考えた人自己満足したりしているより多くの人と接し行動することによって仲間が出来るというのは、人生をより豊かに出来るし、お互いに成長し合っていけば一層よい。具体的には、女性の経済的・精神的自立ということ。

⑭今まで以上に力を入れて、新婦人の会の活動、生協運動。

高木さん達とも、時にはお手紙でもしあえるように希望しています。

⑮わいふ代表者の方達の考え方や姿勢に12年の間、親近感が生まれ、ひかれて来たので、全く別の「わいふ」では、わからない。

### ★ 【回答49】

①37才

②実家で6人家族↓結婚して父母、妹2人、主人、私↓父母、主人、私、子供2人。それぞれ6人ですが、構成員が変っています。

③幼稚園教師↓主婦

④住所変化一度。結婚により。

⑤46kg↓長男出産49kg↓次男出産↓53kgに一定する。

⑥視力1.5↓1.2位におちる。

⑦文学書・幼児教育書↓小説よりも実生活的なものが多くなった。医学に関すること。育児、しつけとか教育に関する本、ずい筆等。

⑧長い小説をやむ根気がなくなった。

⑨母の病氣。

⑩変った面↓教師をしていても子供のないう時は母親の気持がわからずきついことをいっていただろうと思います。子供を持ってみて親の立場がわかったように思います。

子供の為に我慢することを知ったと思います。

変らない面↓自分ではわからない。(他人と会うと変ってないな〜といわれる)

⑪12年前、非常に不安定であった。結婚をはっきりさせること、仕事をどうするかははっきりさせる。

現在―一応生活も安定して来て、如何にして自分をいかしていくか。子供と親を見守りながら、一度しかない現在をどうするか。又不安定ですが。

⑫42年の49号だったかしら？

くらしの手帖で松田道雄さんの紹介にあります。

⑬同じ年代の人達の考え方や生活を教えてもらった。(同じようだなという安心感)

書いたり読んだりすることで生活の区切りになる。

⑭おともだちが出来る。

⑮遠くにおあい出来なかったこと。

⑯生活の区切りで何か書いてみようという気持。

同じ年代はよくにたことを感じたり考えたりしているな、という仲間意識。

⑰田原本の渡辺さんとお会いして相談しようといっております。

⑱あります。

### ★ 【回答50】

①36才

②両親、祖母、兄夫婦、妹、私の七人家族から、主人の両親、夫、子供三人、私の七人の現在です。

③病院栄養士

長女出産と同時に退職、自営の写真館営業の手伝い。

④結婚により一回。

⑤体重、視力は大きな変わりはないが、体力は著しく減退。

⑥育児関係の本よりそう出ていないようです。

⑦私的―長女出産  
社会的―浅間山莊事件

⑧自立心がなくなった。

肩に力が入るわりに、何もできない点は変らない。

⑨前―仕事を続けること。

主人が勤めているので、辞めて家業手伝い。

今―自分の城をつくりたい。同時に精神的自立。

⑩新聞、雑誌等で二、三回。二年ほど前の新聞がきっかけです。

⑪いつもは次元の低いことで悩んでいて、わいふは少し高度の面もありますが、別の角度で見られてありがたいです。

⑫ない。

⑬ない。

⑭ある。

### ★ 【回答51】

①42才

②3人家族(息子高)―姑と過した時もあり。

③主婦(48年の時産休教師経験)

④2回(転勤のため)

⑤変化なし。

⑥随筆・評論(例―小林勇、池田満寿男、富岡多恵子、神谷美恵子等)好きでしたが、最近歴史に興味を持ち始めました。

⑦私的―母の死

社会的―ベトナム戦争の終り。

⑧前向きに生きたいという点は何も変わっていませんが、みのりあるものになら



ないのが、計画性のなさからくるもの  
と思っています。

⑨教師を一度経験してみたいと思ってい  
たことが、実現できたこと。

絵を画きたいこと。発表できる機会を  
持ちたいこと。

⑩「わいふ」が十周年記念の時「私の戦  
争体験」が朝日に紹介された時。

⑪「わいふ」のその名のとおり、主婦が  
日常生活からくみ出した様々の意見に  
同感を覚えることは非常に楽しかった。  
何度が書かれてありましたが、私もど  
れも興味深く読ませていただきました。

⑫なし。

⑭十年間続いたささやかな「主婦の会」  
がありますので、その足あとを「わい  
ふ」のようにまとめることができれば  
と思っています。

⑮あります。

★

### 【回答52】

①39才

②38年に次女が産まれ、それ以後現在も  
同じ構成（四人家族）

③無職からパート勤め

④宝塚から西宮へ転居  
（公団住宅→分譲住宅）

⑤体重→変化なし。懐がさびしい為か、  
中年肥りとも縁がない。

視力→近視が少しすすんだ様。遠視で  
ないのは、まだ若い？せいかな…

⑥あまり変化なし。「わいふ」の周りの  
人達にくらべると読む冊数が少なく恥  
しいが、交友範囲が広がった為、読書

の中も少し広がった様と思う。

⑦私的なもの→印象に残ったという事で  
はないが、大きな出来事として、住宅  
の購入。

社会的なもの→ケネディ暗殺  
ペーパー、石油ショック（一見平穩に  
思える私達の生活が、その気になれば  
極く一部の人間によって自由にあやつ  
られる恐ろしさを感じた。）

⑧変った面→若さ・身体的にも精神的にも  
変らない面→ものぐさな性格、やりく  
りの弱い点

⑨12年前→二番目の子供がうまれた年で、  
ただ子供が健康に育ってくれる事が、  
望みだった様に思う。

現在→子供が早く大きくなって、自分  
で責任を持って行動出来る様になる事。

⑩団地向け新聞で「わいふ」の存在を知  
り、しかも高木さんと同じ団地に住ん  
でいたので、41年末。

⑪主婦という同じ立場にありながら、個  
性豊かにくらしている人達を多く知り  
得たこと。

⑫会員数の割に投稿者が少なかったこと。  
載せられた文章に対する反応や、それ  
の展開が少なかった事。（いずれも会  
員の一人である私にも責任の一端があ  
ります。）

⑬何も出来ない事を、子供や夫のせいに  
しがちだが、何といても本人の心が  
けが一番という事をわかった。（わい  
ふ仲間との交友関係から）

⑭目下、具体的な計画なし。

⑮暫く休んで考えてみたい。

### 【回答53】

①34才

②二女誕生

③有二三回

東京のアパート→社宅→転勤により実  
家→現住所

④変化なし

⑤私的→両親の扶養問題（自分の老後）

⑥二人の娘が自立出来る女性に成長して  
くれる事。

⑦一九七〇年、朝日新聞（私の受けた教  
育）。その当時、長女が入学し、教育の  
方法やその他いろいろ戦後の教育を受  
けた親の欠点がよく取り上げられてい  
たが、自分の受けた教育を自分では悪  
いと思わないので、大いに興味があつた。

⑧自分をよく見つけ、はつきりと自分を  
主張し、行動している人を知る事が出  
来たこと。

⑨女の生き方（妻・母・女・人間）それ  
ぞれにおいて各々の生活があるが、男  
性が優遇されている現在、結婚した女  
が拘束された中で、どのようにして自  
分を生かすか、又、将来二人娘の生活  
など考える機会が与えられた事。

⑩読ませて戴きたく思います。

⑪読ませて戴きたく思います。

⑫読ませて戴きたく思います。

⑬読ませて戴きたく思います。

### 【回答54】

①39才

②38年2月結婚、39年5月長男誕生、42  
年5月次男誕生。

③残念ながらなし。ラポテューターを続  
けているが、はつきり職業といえるか  
どうか。



④38年2月→45年6月 久留米市在住。

45年6月→現在50・6月 習志野市在  
住。夫の転勤のため。

⑤結婚当時49kgが出産後52kgコンスタン  
ト。視力左右ともに2.0、そろ／＼老眼  
か、大むね健康だが最近とみに疲れや  
すく体力なし。

⑥バカ丁でない遅読なので、積読に我な  
がらいや気さす感じ。専ら自分が現在  
かかわっているPTA、教育関係、公  
害関係にかたよりがち。もっと小説を  
読みたい。

⑦私的→長男次男の誕生が最も大きな事  
だと思いが、もうずいぶん昔のことの  
ようにカスんでみえる。その結果とし  
て、昨年度柄にもなくPTA会長など  
になって親・妹から冷かされたことな  
ど。

社会的→目の前にわずかに自然の姿を  
とどめていた海が、人間の手であんな  
に簡単に破カイされるという事実をみ  
たこと。

ベトナム戦争終結。

⑧リフォームばかりして悦に入っていた  
一主婦にしては、子どもの成長と共に  
社会に目を向けるようになった。

遅読で文才なく、ぎりぎりまでしなけ  
ればならないことにとりかかれない点。

⑨12年前の10月といえば長男にお乳を飲  
ませながら東京オリンピックの女子バ  
レーボールの活躍に一喜一憂していた  
事位しか思い出さないのはおそまつだ  
が、問題意識もさしてない一主婦とし  
てはあたりまえの姿なのかも知れない。

いま育っている、またこれから生れてくる子ども達が健康で最低限の幸せを自分の努力で手にすることができると世界でありたい。樂觀してはいませんが私は外国を旅したい（キザ！）

⑩ わいふ発足当時から会員でいらつしやる後藤美和子さんから紹介されて、久留米時代から時々話には伺っていました。が読み始めたのは、45年習志野に移ってから。書きたいことは沢山ありながら、とりかかり遅く文才もないので、せっかくだと紹介していただきながら悪い会員であり続けたことをほんとに申しわけなく思っています。後藤さん編集者に深くおわびいたします。

⑪ いろいろな地域で、それぞれ頑張っている方々の文に接すると、私ももう一ふん張り勇気づけられることも多かった。

⑫ 一人一人の「わいふ」のつぶやきが点のままで終ったのではないだろうか。これは会員一人一人の責任だけれど、無理なことかも知れません。線とし面とすることのむつかしさ。

⑬ 「わいふ」そのものから受けた影響はあまりないと思います。（大変失礼な言い方かも知れませんが）勿論⑫⑬について編集者または内容に問題があるという意味ではありません。それ以前に前からの会員であられた後藤さんからは大きな影響を受けていると思う。

⑭ 自分の意志をできるだけ正確に人に伝えることを学びたい。「わいふ」はその

の場であつたと思うのですが…

⑮ また同じようなぐうたら会員、受身の会員で終らないことを前提にして、参加できる自信がないのですが…一日30時間くらいだったと思います。こんなことでは答えになっていませんね。

★ 【回答55】

① 28才

② 38年—父母、私、弟の四人

46年結婚—主人、私の二人

47年男児出産。現在に至る。三人。

③ 42年より46年中学教師、退職。

46年（8カ月）パート店員。

47年（4カ月）産休補助教員。

現在—主婦、無職。

④ 4回。短大寮へ移転、赴任地へ移転、結婚、自宅購入のため移転。

⑤ 20才代で、5kgふえる。あとは視力とも変化なし。

⑥ 名作古典ものから現代の生活に密着した読みもの、評論、小説に興味をひかれる。人生論、女性的な読書傾向は今も昔も変わらない。

⑦ 私的な出来事はキリスト教を身近に知るようになったこと。社会的な出来事はベトナム戦争の終結。

⑧ 自分が変わった面—世の中は善意でまわっていると思っていたが、現実の種々相の複雑さを思わないで行動できないこと。全く変わらない面—そういう中でやはり理想的な人間生活を打ちたてていきたいと思う。

⑨ 青春時代に中学教師になりたいと思い、幸にもなれた。今、一番望んでいるこ

とは、子供が無事成人してほしいこと。

⑩ 48年10月、朝日新聞家庭欄で。

⑪ 知的な主婦の歩みを知り世界が広くなった。

目に見えない友情と励ましを感じる。

⑫ 投稿しない方が悪いがもつと投稿しやすい雰囲気を作るにはどうしたら良かったか。

⑬ わいふ、という主婦の集りの創造のすばらしさを知り、今後自から主体的に生きる活力を得た。

⑭ わいふの課題を考えながら例えば新聞に投書とかいうかたちで勉強していきたい。

⑮ 読代値上、悪条件の程度であるが、できれば参加したい気持ちが強い。

★ 【回答56】

① 49才

② 同じく3人

③ 同じ公務員

④ 一回。41年11月公団住宅申込に当選したため。

⑤ 老化現象起る。遠視になる。各器官が弱り特に視力落ちる。

⑥ 疲労で読む根気がなくなった。

⑦ 私的な出来事はなし。社会的な出来事は数あるけれど、平和を願う身にとつて、ベトナム戦争が終ったことが何より嬉しい。

⑧ 少しは人間の幅が広がったように思う。

⑩ 神戸市灘区の保育所作り運動の過程でわいふの存在を知り、仁川保育所作りの体験は貴重なお話だった。



昭和39年頃だったと思う。

⑪ カンフル注射的存在で、色々刺げきにもなり、参考にもなり親しみをもって楽しく読めた。

原稿が全部記載されることはたいへんわいふの特色です。

⑫ 読み手ばかりで不良会員だったことをおわびします。

忙しいわいふ達がこれだけ続けられたそのことだけでも頭が下り、内容はとやかく申せません。

⑬ 残念ですが、やめたいと思います。

★ 【回答57】

① 38才

② 夫、私、長男、娘一人増える。

③ 12年前、公社員。現在、無職。

④ 12年前六畳一間のアパート。その後、私の母の家で同居二年間、いろいろもめて、現在は借家住まい。

⑤ 体重51kg→56kg 視力変化なし。1.2

⑥ 自分の人生で今が最も読書の進む時（読書サークルのおかげ）とにかく巾広く読んでいます。

⑦ 社会的—ベトナム戦争の終ったこと。私的なこと—夫の家出と娘の病氣。時期が同じだったため、毎日死ぬ事ばかり考えてくらしした。

⑧ 変った面—少しずぶとくなつたみたい。変らない面—多少のことではへこたれない根性を持ちたいという気持ち。

⑨ 12年前、自分の家。今、やっぱり自分の家。その展望、ほとんど絶望的。公的には地域に図書館のできること。今署名運動にとりくんでいるが、現市



長の任期中には実現させたい。

- ⑪⑫⑬まことに申し訳ないが、あまり良い会員ではなかった（あまり書かなかったし、会費も滞納したし）何もいう資格はないと思う。

- ⑭今、地域の読書運動に深くのめり込み過ぎた感じ。でも来年の三月迄は精一杯がんばらなくっちゃと、大して実力も無いくせに気力だけは充分。

- ⑮できたら参加したい。（読み手に廻らせていただけるなら…）

### 【回答58】

★

- ①36才

- ②次男（S41生）が加わって3人から4人に。

- ③なし。

- ④夫の転勤に伴って居住地3度、住居5度変わる。

- ⑤体重43kg↓50kg（定着）

視力—元来遠視だったものでそのまま老眼に移行。

頭髮—美しいくり色から白髪まじりの悲しい赤毛。

体力—疲労感甚しく、いろんなことが計画倒れに終るこの頃。

その他不定愁訴、そううつ症、眼精疲労ひんぱん。

- ⑥乱読 雑読みの癖変化なし。しかしこの頃気づいたことは、この10年余りあれこれと手当たり次第に読んで来てようやくにして歴史の動き、背景、少しばかりの子見らしきもの、そんなものが自分なりにつかめるようになって来た感じ。評論・講話集のようなのが好きだが、

この頃は対談物から特別の面白さが見つかると感じ。

ごく最近読んで面白かったもの—私と天皇（小田実）複合汚染（有吉）兄貴として伝えておきたいこと（岡村昭彦）世界（8月号）

- ⑦（読書の姿勢と似ていて）私的なことでも社会的なことでも大雑把な受けとり方をしてしまうらしくて、わりと事件らしきものでも当座の興奮は大きいくせにその印象はすぐさま拡散させてしまう。特記すること公私共になし。（ちよっとおかしいですね）

- ⑧変らない面—怠け者。悲観主義者。

変った面—「生きる」ということについて、自分なりの思想を抱いて歩み始めた自覚が持てたこと。

- ⑨○有資格者として働きたかった。怠け者プラス転勤族の悲哀で身を入れてやる気持起さず、結果、寄生虫ぐらし。

○今望んでいること—ぐんと若者になるか、一足とびに老境に入るか。ときどき、しばしば「生きづらいな」という思いにとりつかれて困る。ホントに。

展望—平々凡々に行き（息）つけば吉波乱万丈にぶつつかれば大吉か大凶かのいずれかだと思ふ。怠け者の未来に何が待っているやら？

- ⑩38年、暮らしの手帖の松田道雄氏の紹介文で、13号から所蔵

- ⑪むのたけじ氏を知ることが出来たこと。怠け者でない友人達を沢山知り得たこと。自分の書いたもの、例会でしゃべったこと等を通して、尊敬する友人達

から、自分自身をかなり克明に率直に晒わけて頂けるチャンスを持ち得たこと。

- ⑫全面的において「自由」であったことが「わいふ」の命をここまで永らえさせた反面、ここに来て壁につき当ってしまったということ。規模が大きすぎたとも思えないのに何かしら集結することの困難さが先だって意志の疎通に欠けた。これはそのまま誌面での反応

にぶさ、掘り下げのなきにつながら、マンネリを呼び「疲れ」を招いた。

- ⑬むのたけじ氏を知ったことから、対中国の考え方を主軸にして、日本の近代史がようやく見えて来た感じ。

中国に対しての日本、アジアの中の日本、これらは五味川純平氏や山崎朋子氏に拠るところも大きいけれど、それらの出発点は私にとっては「むの氏」であり、「たいまつ十六年」である。紹介者は高木さんであり「わいふ」である。

- ⑭計画的な読書生活と「書く」ことの日常化に努めたい。

⑮どちらかといえば拡大でなく縮小する型での再出発であれば参加したい。勿論そのときは負担の大きくなることも覚悟。「わいふ」そのものの継続には余り期待しない。

★



### 【回答59】

- ①38才

- ②夫婦と長男の3人家族から、義母、次男、三男をまじえた6人家族となる。

- ③あいかわらずの地方公務員で変化なし。勤続19年というところ。

- ④西宮市から主人の転勤で加古川市へ。それからマイホーム建設で三木市へと三転。

- ⑤3人の子どもを生むたびに5キロずつ増えて58キロまでなっていたのが、ここ二、三年の間に5キロ減りおなかのまわりをのぞけば、ますますといったスタイル。視力は近視の度が進まなくなつて久しい。手足のしびれが少し気になる。

- ⑥3人の子育てと職業を両立させるのが精一杯で、通勤電車内で雑誌に眼を通すのがせめてだったのが、三男が二年生ともなり、子どもと共に勉強や読書がやつとできるようになってきた。今年には「国際婦人年」でもあり、婦人問題について精読して男女平等発展について考えてみたい。

- ⑦私的—3人の子どもの誕生と父の死。社会的—ここ三、四年のものすごい物価高と無茶苦茶な田中金脈問題への腹立ち。ベトナム戦争勝利の朗報。

- ⑧ひっこみ思案で人前で大声でしゃべれなかった内気な私が、子どもを3人産み子育てで奮闘した結果がもたらしたのか、それとも相応の年齢がたてばこうなるのか分らぬが、とても性格が明るく、がめつくなり我ながら良い傾向とされている。

しかし、物事への集中力は依然として弱い。

⑨親子6人がゆったりと暮せるマイホームが希望だったのが、二年前にやっとなくなって、野菜づくり、植木いじりのぜいたくが出来るようになった。

これからの心配は、子供の教育問題で、教育マゴンにはなりたくないが、子どもたちが個性を生かして精一杯学力を身につけ一人前になり、そのあとひっそりとゆったりと自分のペースで暮らしたい。

⑩妹（高木由利子）より連絡があり、当初より会員となる。

⑪遠距離通勤、3人の子どもの保育所生活、そして家事と忙しい毎日で、勉強らしいことは何も出来ないこの10年間だったが、毎月きちんと届けられる「わいふ」には頭がさがり、その内容もなかなかレベルアップしていったと思う。やはり自分の原稿とか、知り合いの人の原稿が掲載されている時はうれしく、又書かねばという気が出た。

⑫私自身が忙しい生活でほとんど読み手で申し訳なかったが、どうしても一部の文章も上手な問題意識の旺盛な人達でのみやられた感があり、書き手と読み手がますます二分されたようなところは不満といえよう。

⑬家庭におられる主婦専業の方が始められたのだが、不満や感想をよせあうこの小誌がなかなかどうして、働いている職業人である私よりずっと充実した素晴らしい人達がたくさんおられるこ

とを知らせてくれた。そして次第に主婦業をのりこえて社会的に地域の活動でずい分と成長された姿をまのあたりにみえました。

⑭「わいふ」廃刊はやはり淋しいですね。私自身は、労働組合の役員として現在もずいぶん活躍できる場をもっています。余裕が出来れば読書にPTA活動にとファイトを持ちつつつきたいと希望しています。

⑮私には参加する意志はあっても、現状としては時間的に無理で、やはり読み手になってしまおうのではないのでしょうか。

★

#### 【回答60】

①満40才8ヵ月

②夫婦と中学生の娘2人。月のうち半分以上来宅する姑。

③主婦専業

④41年に杜宅から自宅（新築）へ、49年に姑の部屋を増築。

⑤年子の子供たちの育児と内臓下垂で、45kgだった体重が、結婚前の56kgにもどっていますが、ウエストは太くなって72cm。動作も神経にもぶくまり、全体に「鈍感」になっています。

⑥乱読。

旅の本と地図、時刻表で私一人の旅（ペーパー・トラベラー）を楽しんで居ります。

⑦母の病死。

現代の若者のいろいろな姿。

——破壊的活動家からスポーツやボランティア活動に汗を流す人々など。

⑧子供達を怒るのをある程度あきらめたことが変わった点でしょうか——非論理的な者ですから相手にされない為——相変らずの自己中心人間で、楽天才で怠け者、家事は嫌いだ、遊ぶことは好きな困った点は変りそうもありません。

⑨自分の自由になる時間を持つこと。自由になる時間がありすぎるというのも、ぐうたらな人間にとって、良い結果ではないようです。

現在は子供達が成人して、家を出て行った後でも、独りで楽しめる物を模索中です。

⑩45年頃、子供の学級で一緒だった同人の玉造さんから「和田（矢崎）さんの記事を読んでみる？」と貸していたのだのが「わいふ」との出会いです。⑪妻、母、仕事、そして地域活動と一生懸命に生きていらつしやる多くの女性の存在を知り、自分自身の生き方を反省させられます。

⑫入会して二年足らず。専ら読み手で申し訳ありません。

編集者の皆様方、長い間御苦勞様でした。

⑬参加の意志はあります。

多くのわいふ達の小さな灯を消すことなく、細々とでも燃え続けますことを願って居ります。

★



#### 【回答61】

①37才

②子供（女）一人増え、夫婦と娘二人となる。

③主婦業のみ

④8回。主に転勤。姑と同居の為。

⑤体重。三年間程、友に逢う度「やせたね」と言われ、「気の毒だからやせたともう言わない様に」と言われた以後、変わらず47kgのまま、昨春風邪をこじらせ、軽い肋膜炎にかかり、体力はガクガク。ある治療により現在はほぼ健康体となりつつあり、最低体重今年6月36kg、現在39kg。

⑥乱読。

⑦姑と生活してゆく事のむづかしさ。

⑧変った面——食物に対する考え方。変っていない面——金銭のやりくりの下手なこと。

⑨別になし。  
今一番望んでいること——家族の健康

⑩S48年朝日新聞「私の受けた教育」の記事を読み入会。

⑪毎月決まった便りが届く嬉しさ、例会に参加して自分を空想したりする楽しさ。

⑫共に作ってゆくものなのに、積極的に参加しなかった故言う資格なし。

⑬強烈にこれですと書けるものはないが、ジワジワとしみ込んでいるのかも知れませんね。

⑭なし

⑮出来るだけ参加する積り。

【回答62】

①54才

⑩「私のうけた教育」わいふ100号記念特集の紹介を朝日新聞紙上で拝見。三、

四部お願いしたのがきっかけで、つまり100号以来の御縁です。

⑪身近に、女として母としての共通のなやみ、喜び、いきどおりをもった女性が、でも私共の時代はただ黙々と生きているだけでしたのに、昭和生れ、それも十年以後の戦後派女性は前向きに団結して少しでもより人間らしくと頑張っていたしやるその連帯感、逞しさに教えられました。差別されている女性の一人として本当に救いを感じました。

⑫ただ拝見するだけの不甲斐ない会員の一人としていつも御健闘を称え、感謝するばかりでした。時代は変わったとしても、内容的にはまだまだ女性封建性なごりの強い風習の中に生きてます。社会のしくみが変らねば、受けた教育を十分に活かす場はまだまだきびしいのです。一人一人のつぶやきの場としてわいふの存続を願う一人です。

⑬ただじつとひとりつぶやくだけでなく、何か外に向かって行動すべきだという事を遅まきながら感じております。が時すでに身体も老化をはじめ、自分の生活をする（つまり生活費を得る）ことだけに精一杯で情ないきもちです。

⑭別にありません。本はいろいろ読みたいですけど、でもわいふの様に身近な方々の生のお声を聞かして頂いて、

共に感じ考えさせて頂くチャンスに又巡り合えますかどうか。

⑮参加します。

【回答63】

①36才

②3人家族↓5人家族

③主婦専業→有職主婦

④1回。団地→戸建

⑤50kg→58kg

偏食がなくなり前より丈夫になる。

⑥あいかわらず濫読。目が疲れるので適当に読みたい気持をコントロールしている。

⑦私的―父の死（人間の死に直面したはじめての経験）

社会的―石油危機による経済パニック。

⑧変わった面―何事にもあまりオドロカなくなつた面。物事に動じなくなつたといえは聞こえは良いが、感受性がにぶつたせいかも。

変わらない面―過去や現在より、未来の方に何かすべきなことがありそうに思えるおめでたい性質。

⑨職業を得て自立したいと望んでいた。自立しているかどうかはわからないが、職業を持ちたいという望みは達せられた。

今の望みは、晴耕雨読のできる生活をしてみたいこと。（都会育ちには無理かも知れないが、誰か百姓仕事を教えて下さいませんか）

⑩創刊当時から。

⑪自分自身の世界を持つことができて、夫にべったりよりかかる精神状態から解放されたこと。わいふと共に歩むこ

とは、即ち、主体的に生きるあかしでもあった。

⑫いつまでも同じ所を堂々めぐりしているようなあせりを感じる時があったこと。

⑬みんなそれぞれ、重い荷物をかかえながらも一生懸命生きているのだなあと

いう感慨。自分のはげみになった。

⑭特になし。年に一回位、生きてるってことをたしかめるために、もし有志があれば同人誌を発行してもよい。

⑮有。

【回答64】

①37才。

③夫婦から子供（娘）3人増えて5人

③子供が生まれる迄数カ月間パートであれこれ。現在自宅で数人の家庭教師。

④1回。団地が狭くなったので。

⑤白毛、顔のしわ無数、真に中年。

⑥フィクションからノンフィクションへ。

⑦社会的―〇ヴェトナム戦争とその終結。〇石油ショックに単を発したパニック。

（いずれも子供の頃の戦争体験から出て来た恐怖心かも）

⑧変わった面―昨年あたりから母親という自覚が出て来たこと。37才の女という自覚を持たされつつあること。

変らない面―まず自分があって、それから他を考える事。

物事の一面しかとらえられない事等々。

⑨12年前に何を一番望んでいたかは忘れた。今やっていることで（英語をちょっぴり）職業をみつけたが、先行全く暗し。もう一つ、どこかへ出かけて行って体験した事を書いたりまとめた

りしてみたいが、これも物事の一面しかとらえられない性格なのでほぼだめ目下絶望的。

⑩38年10月創刊時から。

⑪〇各々個性的な生き方のいい種類の間と出会えた事。

〇手の離せない育児時代にストレス解消。又、いい刺激剤だった事。

反対にあまり良くなかつた点もある。

〇私個人の思い上りで「わいふ」の人間のみとしか積極的につき合おうとしなかつた点。

12年間ずっと「わいふ」を真剣に取り組んでもいなかつたのに、自分でさも何かをやっていると思い込んでいた事。

⑫時々不満足だった事はあったが、12年を通して振りかえてみると、やはり「わいふ」に関わって来てよかったと思う。

⑬⑪に書いた。

⑭今年、幼稚園と小学校のPTAの役員に当たっているの、目下のところそれで忙しく、来年無罪放免になったと考えます。

⑮どうするかなって感じ。

【回答65】

①39才

②母、弟、妹↓結婚により夫、夫の母、子供3人の6人家族。

③S39年3月まで勤め結婚後なし。

④結婚後夫の家へ、その後変化なし。

⑤体重、視力は大した変化なし、肩から腕にかけて肉がついたように思う。

⑥以前は乱読。今はあまり読まなくなつて（小説などは）反省している。

最近では「複合汚染」がよかった。  
⑦私的―第一子の出産と育児

社会的―だんだんと汚染が進んで来て、地球が住み難くなっている点。又完全な食品、大気が少くなっている点。

「十年ひと昔」という言葉がピッタリと  
する感。

⑧変った点―わかりません。

全く変っていない点―消極的

⑨今一番望んでいること―住みよい日本、  
大きくいうと地球。どこまで進むかわからない公害や汚染を、元の自然に戻したい、又安心して食べられる食べ物。地球上の飢餓がなくなる事、食糧危機・資源不足がいずれは来るというのに、社会一般に浪費すぎているので、計画的であってほしい。政府、お役所の無力さを痛感。私的には―生きがいのある人生（夢にならない様）と健康。素敵なお年寄りになる様心がけたい。

⑩高木由利子様に読ませていただいて。  
送っていただいたのは確か一七号から。

⑪私の接した人達の中で一番進歩的なグループの方々のご意見が読めた事、勉強になりました。

○「言論の自由」をつくづく有難く思います。

⑫こちらが投稿しなかったので言う事はありません。

⑬○「行間を読む」事を教えてもらった。  
○自分の考えをまとめ発表出来る方々の力強さ。

⑭特になし。

⑮あります。（今まで投稿や何のお手伝い  
もせず、すまなく思っております）

## 我家のボーイフレンド騒動

吹田市 久代 節子

さりすることね。

じや、これから彼に電話するからね。」

（原文のまま）

幼な馴染みの彼女は、中学校から女子ばかりの私学へ、娘は公立中学校へ行っている。

手紙を聞き終って姑は、

「その子、あんたと同い年か。ませてるなあ。」

「痩せてちびやて、恰好悪いよ。お姉ちゃん気にしない。それにうちの中学校には、ろくなんおらんもんな。」

「あの子、色気づいたな。相手は僕の後輩やないか、たいたことないぞ。」

とそれぞれに慰めているが、当の娘は「口惜しい。ほんとうに人を馬鹿にしてるでしょ。ボーイ・フレンドなんてまだ欲しくないわよ。級やクラブで大勢の男の子と話が出来るもん。」とブンブンしている。

「素敵だなあと思う人居ないの？」

「去年迄は上級生でいいなと思った人が居たけど、もう覚めてしまつて……つまらない人を憧れたなと思つての。」

「何やあんな、猿みたいやないの、よしといてよかったね。」

と中一の妹がえらそうに言っている。

「それでおまえ、もてるのか？」

「まあね。○○君は個性的で面白いと言ってくれるし、××君はお前と話しているとなえかつこせえへんから楽しい言

うてるし、△△君はすぐ話のつて来るから面白い奴やなと言っし、□□君は……、あせらない。」

「ほう、そんな事言うてくれる男あるのか」

と、其学の味を全く知らぬ父親の方がいささか心配になって来たらしい。

同級には、幼稚園や小学校から同じだ

という男の子も居るので、娘にとっては「男性」を特別に意識する事なく通学しているらしいし、目下の所 特定より

も不特定多数という健全(?)な精神状態をしているようだ。

因みに娘の級で「生活と意識」調査をした中で、異性の友達が生と答えたのは皆であつたし、異性の友達を持たない人で、今後欲しいと答えたのは男という

答が出ている。そして全く異性の友達を必要としないのは君であつた。

「やよい、此頃少しはきれいになつて来たぞ」と向い側で父親に言われると、

「親馬鹿」と即座に怒鳴り返している。毎日、スポーツ・クラブの練習や試合で、くたくたになつて帰つて来て、「ただ今」に続いていつも口に出るのは、

「お腹すいたあ、晩御飯なに。」

と、色気よりも専ら食い気盛んな娘でもあるので、当分の間親は安心していら

れそうだ。

これからは、精神的にも内向して来るし、親よりも友達を選ぶ年代に入つて来るので、何時まで話し相手や相談のつて

やれるかわからないが、話しやすい雰囲気だけは保ち続けたいと思う此頃である。

## 近況

大和郡山市

杉本嘉子

残暑が厳しく、大変ですが、夜には虫の声も聞かれ、秋ももうまじかのように思われます。

皆様にはお元気のことと存じます。早く書こう／＼と思いながら、休み中はバタ／＼して、こんなにおくれてしまいました。

七月に初めて田原本の渡辺様をお尋ねしました。バスで十五分余り、子供達が学校にいつている間に二人でたのしいひとときをすごさせていただきました。早く帰ろう／＼と思いつつ、もう少し、ついにお昼までごちそうになり、話に花を咲かせておりました。

東京の方で継続して下さることはまだわからなかったときで、

「おしいな／＼、どうしたらよいかしら」「ノートで書いてまわそうか?」

「ガリ版ずりをやるか」「でも原稿も少なくて続かないのとちがうかしら」とよもやま話をしておりました。

まず、最後の例会に出席して、いろいろの話をきき、それから奈良のもので一度あつまり、おしゃべり会をしよう、そ

れからゆつくり考えていこうと話して別れました。135号でわいふの継続を知り、とてもうれしかった。

### ◇

脳卒中になった実家の母は、おかげさまで元気です。おこしております。自分のものを洗濯したり、たいたり、やいたりの料理は出来ますので、簡単な食べ物自分で作っています。朝夕は畑や庭の草ひきをしています。

でも、すみ／＼まで掃除したり、敷布や毛布のせんたく、季節の衣類のいれかえは出来ませんし、買いたらないものを買ったり、一カ月に二・三回はのぞきに行くようにしています。

マッサージの人が週一回、近くの医師が一週間に一度ようすを見に来て下さるので、家庭療法もいい面があったのではなかろうかと思えます。でも長いので、周囲のものに疲れの出ないようにと心配しています。

### ◇

現在無理をすると歯が痛くなりますので、お正月よりずっと歯科治療が続いています。まず自分の健康からと頑張っています。

おつとめに出たいと思いますが、もしも母が入院でもするとうとうしようかと思うと決断がつかず、今はいつでも休業できる範囲内のことで楽しもうと、あちらこちらへ首をつっこんで広く浅くうごいています。

### ♡

八月二〇日、二十一日、二十二日と、

高野山で「関西ひと塾」が開かれましたので、あまり「ひと」も読んでいないのに、野次馬根性でこの／＼と友人四人と出かけました。家の都合で一泊で帰りましたが、親子ともいい思い出となりました。

参加者は大人208人、子ども33人で、そのうち180人まで先生で、主婦はたったの20人ほどでした。親と教師と腹の底から話しあえるかと思いましたが、この割合ではだめでした。

子どもは寝食ともに別れてあずかって下さったのですが、この経験が何よりもいい収穫であったと思っています。

小三と小一の子どもはみんなと共にごきなお寺で食事をし、お風呂に入り、寝るのがたのしいらしく、二晩も三晩もいたいと残念そうでした。

子どもたちをあずかって相手をして下さるのに、四条學学園の女校長先生もいて下さり、この学校のフンイキが感じられてうらやましいでした。

私が出席した講座は島本洋子先生の「美しい音を求めて」の授業を、子どもを使ってみせて下さいました。

もう一つは、つまさきさち子先生の「からだそだて」という講座で、心身一元論の立場から、体も心もどのようにしてしなやかにするか、と現代体育の欠点をついておられました。

ナイターは、

①「ひと」をやつつける ②リンパマッサージ ③板倉先生を囲んで と、広い場所が好きなおところ(二カ所)に集まって夜中の一時、二時まで話しあっておられ

たようです。

私はリンパマッサージを覚えてもらいました。夜、眠れなかったかげんか、涼しいかげんか、おみやげに風邪をひいて帰りました。たくさん講座があったのですが、出席出来ず残念でした。やや教師本位であったように思います。

### ◇

最初結婚した時、姓名が変わるのがとてもいやでした。杉本といわれると他人のことのようで嫌な気持ちでした。がこの頃は慣れてしまいました。同窓会で旧姓を呼ばれると本当に自分一個にもどったような気がします。

主人の母が、普段は「よつちゃん」と呼んでくれますが、他人に「うちの嫁」といっているのをきくと、とてもいやな気持ちにおそれます。今だに、嫁という言葉には抵抗を感じます。

休命中読んだ本、平林たい子著「宮本百合子」の中に次の一節があり、とても胸をうつものがありました。

宮本顕治がペンネームも中条から宮本にすることに要求したことについて、彼女は十二年一月十七日の手紙で彼女のためらいを書き送っている。

「よくよく考えずに返事できないものが内的の必然としてあるのでしよう」と書いていた。

また、自分たちの生活はお互いに豊かな自主的な存在の自覚、責任をもっているからこそ、ゆたかに花咲かせているのであると思う。私があなたの妻であるからというだけで、貴方に心を傾けているのではありません。

……現代日本の法律の上で、特に我々の場合、別々では不便を感じるから、習慣にしたがって姓名を貴方の方に入れたのであって、それは芸術家としての自分とは一応別のものだ、と彼女はいいたいのである。そして最後に彼女は、心からしばり出すように叫ぶ。

「貴方は御自分の姓名を愛し、誇りをもっていられよう。業績との結合で、女にそれがないとだけ言えるでしょうか。妻以前のものの力が十分の自確固をしていてこそはじめて比類なき妻であると信じます」

結局、顕治は、百合子の条理のおつた反対のまゝに提案をとりあげた。が八カ月後に百合子は自分から宮本姓を名のることを公にした。救いのない無期囚の夫に慰めを与える為の悲痛な妥協だった。

## お便り

枚方市

大角 田鶴子

思いもかけず、わいふ廃刊のおしらせに接し、言葉もなくしんとしております。二、三年ほどの後入り会員で、ここまでの御努力もよく存じませんでしたが、いろう／＼と拝見致して本当に子育ての十年をよく頑張つて下さったのだなと今更に敬服致しております。仰せの通り、私もただ／＼拝見してほんとに／＼そうだ／＼と心の中で呟くだけのつまらないひとりでした。その内に又チャンスがあれば

ばとは思いますが、長い事書く事に遠ざかった生活の中ではペンを持つ時間が中々作れなくて只々雑事に時が流れて行きました。

皆様方の御活動の様子を拝見して、今の若い女性には私共よりずっと行動的で知的で素晴らしいと心の中で拍手を致しております。でもそれだけでは編集部の皆様には分って頂けない事でした。何でも人任せの消極的な日本の女、だから何時迄も封建的な社会が変らないのです。女性差別の腹を立てながら、自分でそれに立ち向かわない私。実力で封建社会の壁を打ち破つて行く事の困難さ、やっぱり体制が変らねば……と思うのですが……。社会主義国の様子を聞くにつけ、日本も早く女性が一人の人間として男性にみとめられる日が来る様にと祈らずには居れません。

そのためにも「わいふ」を発展存続させて行かなければと思うのですが……。未熟者で、原稿一つ書けない身ですが、女の人が団結して向上して行く事の大切さだけは痛感しています。

どうぞ何等かの形でわいふを育てて下さい。何の御力添えもせず、今更こんなお願いできるわけもございませんが……。又、十年先にわいふはどうなっているのでしょうか。わいふ会員の皆様は？

私は五十の坂をこえ、あと五年、十年と老い先不自由になるだけの姿を描く日々ですが、娘達の時代はもっと女性にあって明るいすみよい国であってほしい、明るい人生であってほしいと切願します。私自身、母の時代よりは恵まれたと思

います。母より教育もつけ、母よりは文化的な生活も楽しみました。人間としての道徳的価値は母より低いかもしれませんが、視野は広いと思います。母の様な苦勞は私には耐えられなかったと思います。明治廿八年生れ、今年八十才の母の一生は、六人の子を育て、旅らしいことせず、只々子育ての一生です。

私は二人の娘を育て、自分は国内、国外旅行もし、好きな本も読み、映画も見身につけるものも、母とは比べられぬほどいいものを沢山持っています。意識の面でも、看護婦養成所を出て、附属病院で結婚まで働いた母よりは、社会のしくみについても勉強して居ると思っています。

母、私、娘とみてみますと、たしかに少しずつですが、物言える時代になって来ていると思います。ただ職業を持続して行くための施設が揃っている現在、本当に一人の女性として明るい一生をすごすためには、やはり仕事と家庭の両立（それは男性には当り前のことでも）それを女性が得る日が来なければ……と思います。私も結婚と共に教師をやめ（姑の希望で）十年を家庭に埋没、その後教師の再就職はむずかしく、妹の店をアルバイト的に手伝って十年たちました。アルバイト的に時間的に伸縮の利く仕事です。出産、育児を持つ女性のためにもつと世の中の理解を求めねばならないと思います。それがこれからの私達の課題ではないでしょうか。

娘も栄養士として市役所で働いていますが、結婚を前に、やはり同じ問題で

います。共稼ぎでは身がもたないし、私がお家の面倒をみる事は養子でもないのに、相手の親御さんに気兼ねだし、お姑さんにはいろ／＼と不足が出そうとお願いにいしに、きりとして若い彼のサラリーも安く、又彼女も仕事を放したくない、老後の事を思えば恩給のつく今の仕事をつづきたい等々。そして結局女性ばかりが二重の負担を背負うのではないのでしょうか。そのために満足な子が生まれなかつたら、これ又大変な事です……

本当に何とかよい智慧をおかし下さい。こちらの条件びつたりの方を探すまでといえ、女性過剰の日本ではオールドミスでいくより仕方なさそうです。でも私はやっぱり母となる道を撰ばせたいと思います。女として完成する意味で……。

この事は何時までも解決つかぬ問題でしようか。そうは思いたくないのですが……。女は家庭に入れ、浮気は認めろ式の男性のまだまだ多い日本で私の私的なやみはつきません。

毎号わいふに励まされて参りました一人として本当に残念な想いを、私自身のささやかな生き方の反省をこめて、長々と書き連ねました。

十年一節、十二年前、家庭の中だけでは埋れ切れないものをわいふに托されたお方々も、それぞれの道へ再出発なさるべき節を迎えられたのでございましょう。今後の御活躍を盛ながらお祈り致しますと共に、わいふ誌も何とか発展解消の方へお運び下さいます様、お願い申し上げます。

# 白花

神戸市 能勢はつみ

森は果てしなく深く思えた。

その天辺を見ようと思うと首は痛く、ついには後へひっくり返ってしまいそうになるくらい丈高い木や、園児の私にでも、ぴよんと飛びつけば、枝の一つに足を掛けるのもわけなさそうに見える極く低い木も生い茂っていた。

葉の茂りに蔭が重なり、蔭はうねった太い木の根元にも絡み合って、日の光も射し込めぬ程暗い場所も在った。

絵本や童話集で読む「赤頭布」や「ヘンゼルとグレーテル」の中の（森）に、幼い憧れと怖れを抱いていた私には、この北陵の森のそこ此処は、総ておはなしの中の舞台そのままであった。

今の中国は東北地方瀋陽、私の意識の中では今も猶滿州の奉天での遅く短い春の、幼稚園の遠足だった。

初めての遠足で、友人達も皆はしゃいでいた。先生を囲んでのおゆうぎや鬼ごっこを一通り終え解散になると、女の子達は言い合ってたように花を摘んだ。真黄色の大きなタンポポを摘み、茎の根元を四つ割りにして口にくわえ、苦い唾の湧いてくるのを我慢している子も居れば、殆ど黒に近いほどの濃紫の莖と黄色のタンポポを、交互につないで可憐な花環を作り、早速首に掛けている子もいた。

クロバーの薄桃色の花と白い花も咲いていた。低い木の枝に杏の花が咲き、

とりどりの木々の若葉と映え合って、辺りは柔かくみずみずしく美しかったし、丈高い木々の薄緑の枝を透して見る空は大きく青く、白雲は高くまぶしかった。

私は友達と摘む花の中に、時々見つかる真白なタンポポに惹かれた。けれど黄色よりは余程少いか思うようには見つからず、探しているうちに少しずつ、先生や友だちから遠くなっていったようだった。

ふと急に光線の量が少なくなったのに気づいた私は、そこがひととき丈高い木々が、枝をお互に深く絡み合わせ差し合わせると、何本も茂り合わせているためだと判ると、ちよつと心細くなってきた。はるかに高い梢の先から枝々の間を通り抜けて空から降ってくる木洩れ日の光條と、その交叉し合う弱い線が、風の動きで葉がそよげば、おもしろいほどはつきりと光の揺らぎとなって踊り、多少ならず起っていた暗さへの怖れも、いつしか消し了せる珍らしい楽しさだった。目が慣れるにつれて絡み合っているのは木の梢と日の光ばかりではなく、木々の枝にも太い幹にも、また土から盛り上ってうねりを見せている太い根にも蔭が絡み、地表の草々もお互いに茎をもたせ合うようにして萌えていることが判った。

しばらく佇んで、自分の手にしている数本の白いタンポポに気づくと、私はまた続けて探さねばならないと思った。

その淡暗い茂りの向うには、幹の途中に透き徹って光る樹脂を貯めた、まだ花のついでない杏の若木が低くばらばらと生い立っていた。その木々の根元から

根元へと続くあたり一面の草叢は、地表をわたつてくる微風に揺らぎ、白や黄の蝶が舞っていた。そして私の摘みたい白いタンポポが、大きな一株の中に花と荅をつけて直ぐ足許にあった。

しゃがんで、咲いている一本を手折りながら、その時、微かに甘い佳い香を、そしてほんの少し離れて、一筋の茎に七つも十もの小さな花の揺れを見つけ駆け寄っていた。その草叢は鈴蘭で一杯だった。大きく広い葉に包まれるようにして、目の届く限り少しづつ群がって、あの高く甘い香りで辺りを満しながら可愛い鈴蘭が咲いていた。

北陵に鈴蘭が沢山咲くと大人達の会話の中で耳にしたことがあった。馬車に乗って両親やその友人知人達に連れられて何度か北陵に来たことはあった。が、季節が異ったのか、私が幼すぎたのか、意識したのは初めてだった。

自分の手の中で少しぐったりしかけているタンポポを握っている上へ、鈴蘭の茎を増やしていった。私が動くと小さな花々はその茎で揺れた。茎と花をつないでいる細い幽かな線が切れて、白い小花が落ちはしないかと気が気ではなかった。鼻を押しつけんばかりにして、甘い香が飛び散ってしまっではないかと、何度も確かめた。手折る右手の指先が痛くなるほど摘み、佳香に少しおと酔ったようになりながら、小花の一つをつまみ上げ中をのぞき込んでいる時、遠くで鳴る笛が幽かに耳に届いた。

間をおいて幾度も聞える笛の音を頼りに、皆より大分遅れて帰った私は、いつ

もののおゆうぎも嫌い、歌も下手、何とか友達の間に入れて貰えるかしらと、毎朝登園の道で心配しながら歩き、活潑な友人に何か意地悪を言われはしないかと、内心常にびくびくと過す幼女ではなかったようだった。

頬は赤く火照り、眼は真直ぐ前を見つめ、足どりもしつかりと四陣の自分の場所へ、抱いている白い花束に励まされて加わったのだった。

ライラックの花が道へ枝を延し、町並に芳香を風に乗せて立ち渡らせている中を、私はその淡い薄紫の風に包まれて、赤い煉瓦塀の続く八幡町の歩道を弾みながら歩いていた。

「あなたはもうちが近いから、一度ランドセルを置いてからいらつしやい。」担任の波多野良先生に言われ、先生のピアノの会に大和ホテルへ行く約束だった。

学校の中で講堂や第一音楽室のグランドピアノを、それらしく弾きこなす唯一人の先生で

「真白き杏の花のように  
きれいな心で朗らかに  
四年の四組姉妹よ

三番まである学校の歌を作詞作曲して下さり、若く可愛いお嬢さんの先生だった。

通学の運動靴は革靴に履き替え、運動場の砂埃に白っぽくなった紺サージのセ

ーラー服を、ジョーゼットの水色のワンピースと白いボレロに替えて、まだまだ大丈夫よ、と言う母の声にも耳をかさず飛び出していた。

何軒もの高い煉瓦塼の続いた角を曲がると、大きなボブラのある前庭を広くとって奥まって建てられた二階建の児童図書館があった。その前を通り過ぎてもう一度左へ曲がると、歩道際に枝垂柳の植えられた医大前へ出る。この医大の正面側になる道からは、病院の前庭の木々の茂りの奥に附属病院の建物が見えるだけだが、そのずっと背後にあるグラランドの端のテニスコートへは、父に連れられてよく通った。私は父が学生達を相手に、若々しくコートの中を跳びまわっている姿を見るのが好きだった。帰りにはよく学生達が一緒だった。彼等はいいてい家を遠く離れ内地からこの奉天医科大学へ来ている人のような人だった。

丁度医大の正面の端から端までの長い距離を歩くと大和広場の一端に到り、左手はもうホテルの建物の一部だった。真白いその建物は、子供心にもとても優雅に思え大好きだった。夏の夕べには屋上の噴水が美しい光で彩られ、その傍らで白系ロシア人達のクワレットの奏する音楽を聞きながら過す夜は素敵だった。アイスクリームを口に運びながら星の夜の奉天を涼んだ。

広場に面したホテルの正面玄関の回転扉を楽しんで通り抜け、ロビーの右手にあるエレベーターで五階へ上った。

会場にはもうかなりの人々がざわめき、私は波多野先生と級友を探すのにちよっ

とうろろしなくてはならなかった。

今日の演奏者達の控えの間になっているらしい右手奥の部屋から、学校で見るのとは全く寡聞気の変った優雅な先生が、一人の級友を連れてドアから出ながら私を見つけて微笑みかけた時はと安堵の吐息が洩れた。私と級友は言われるままに前の方の真紅のビロードを張った椅子に並んで掛けた。

しばらくして会は始まり、ロシア人の白髪の婦人が実にこやかに、ロシア語に片言の日本語をほんの少し混じえながら挨拶をした。先生がロシア人のせいであるう、お弟子の奏者の半分はロシア人のようであつた。各々の力量に応じ、ソナチネを弾くお人形のように美しく幼い少女も居たし、お揃いのドレスが幾重にも重なったスカートの飾りを動く度毎に花のように見せながら、軽やかな連弾に頬を染める姉妹も居た。五番目くらいだったろうかロシア人の男の子がピアノの前に立った。真白なスーツを着て栗色の髪を分け、多分母親なのだろう私達の丁度横に坐っていたよく肥った女性に笑いかけ、母親はしきりにうなづいているようだった。少年は腰掛けるといきなり勢いよく「トルコマーチ」を弾き出した。が直ぐ間違えたためにぱつと止めると、もう一度立つて皆の方へおじぎをし、改めて弾き直した。皆の好意からの微笑が各々の頬に起り、少年の美しさはその子供らしく素直な態度でより好感をもって眺められた。時間の関係であらう比較的短い曲を選んであり、極く内輪の会である感じを強めてなごやかだった。波多野先

生はショパンのノクターンを実にきれいに、いくらか御自身の酔いもこめて弾き了え、数十秒は余韻を確かめでもしているように腰掛けたままだった。

真黒なピアノの後は黒に見えるくらい濃い臙脂色のビロードの幕が深い襷を作つて垂れ、その両脇には大きなガラスの壺に一杯の白薔薇が生けてあつた。どの花も開きかけと蕾のままの状態で、重なり合った花片は象牙色だの薄いクリーム色だのに見え、天井の大きなシャンデリアから届く光に反射して輝く壺の中で、光を吸い込んで暖か味のある白い色となり、若草色や深緑に変わる葉の色の中で美事だった。

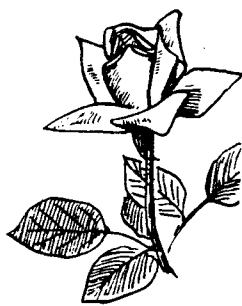
波多野先生のと二人の独奏があつて、最初に挨拶をした老婦人が、何か激しいタツツの曲を奏して会場の空気をひきしめて会は終わった。家庭的な、サロンでの催しのようなものだったが、やはり一種の贅沢な快い時間を過し、級友も私も学校で会っている時と同じように喋ることはいささか照れを呼びそその場の場の空気には、お互に黙つたまま先生を待った。私はずっと気になり続けていた薔薇の花に近づいてみた、少しずつ人の減るのを待って、参会者があと十人にも満たないほどになった時、思いきつてピアノの横から花の傍へ廻った。

数十本の白薔薇は、何と深い夢幻の香を放つていたことか、私はほんの瞬間、自分が自分を失つたと感じた。腰掛けて聞きながら見ていた時は、形、色、配色の美しさの数多い豪華さに、えも言われぬ魅力を感じそれに惹かれて近づいた

のに、加えてその芳香には、すっかり陶然となり立ちつくしてしまつていた。

先刻ほどトルコマーチを弾いた少年が、スキップのような軽やかな足どりで舞うように近づくと、その白い顔を花に寄せて大きく息を吸い込み、両腕を拡げて微笑んだ。そしてその青く透き徹った目でじつと私を見つめると花を指しながら、「好き？」

と、こちらの目をのぞき込むようにして尋ねた。思わずこくんとうなづくと、少年は花瓶から薔薇を一本引き抜くと、ぐいと私の手に持たせ、にこつと笑うとまた舞うように行つてしまつた。私は啞然として彼の去るのを眺め、彼の邪気の



### 例会のお知らせ

十月五日(日)午後一時より、高木宅でいつものように行います。

内容は、2ヵ月以上つまったおしゃべりと、137号の打合わせ、今後の例会についての計画等――。多数御参加下さい。



ない大胆な振舞の上に私とは差のなきそ

うな年齢の印象を重ね合わせて、只吃驚したとのみはいえない不思議な感動を覚えた。少なくとも四年生にもなっていた私の心からは到底発し得ない行動の鮮やかさに圧倒されてしまっていた。けれど奇妙に圧倒された儘で居るわけにはゆかない私は、慌ててその一枝を元へ戻そうと壺の口へ押し込んでみたが、青々とした葉に邪魔され、口一杯に生けられて

いる中へは入らなかつた。思ったより難しい作業に落着きを失い、枝を強く握ったために赤い鋭い棘は指の血を出していた。つい一瞬前まで佳香に夢を見ていた私も半分以上泣きそうになっていたようだった。その時後からすつと人の手が延びて

「どうもありがとうございます。」

と言うと、私の困っている一本の薔薇を小指で挟み、二つの大花瓶を各々の腕で胸に抱えると、ホテルの制服制帽のボーイは消えた。

私はあの少年に花を「好き？」ときかれてうなづいてしまった自分と、ボーイが「ありがとうございます。」と言った時、各々にたまらなく恥かしかつた自分が可哀相でならなかつた。

哀れでいじらしくさえあった。

あの少年の眼には一本の薔薇を欲しくても取れないでいる女の子に映つたのだろうか、ボーイは私が枝を入れようとしていたことを本当に見てくれたのだろうか……

傷ついた指先以上に痛む心は、先生が馬車で送って上げようと言つて下すつたのを断り逃げて、暗い重い心で道を帰ら

せた。

後年私はあの時の薔薇を自分の稚い日の印象から、ホワイト・クリスマスにそっくりだったような気がして、庭に二年もの苗を植えた。若木は思いがけないほどよく育ち素晴らしい花を咲かせた。

狭い庭中にその高い香を振りまいた。三年も過つと木の割に花が多く咲き過ぎるために、五月雨が降ると雨の滴が花芯に止む重みで枝が折れることさえあった。花片の重なりはやはり柔かなクリーム色、棘は鋭く、その匂いはあのカーテンのあたりのものに私には思われた。

坂道をうなりながら登つたバスを降りる。

四月一日の春の風は、ようやくふくらかけて紅づいた桜の苔さえも枝からはずして吹き飛ばしかねないほどの勢いで荒れ去つた。バス停から家までの道を樂しめる季節になった。遠景の山々も木々も、そして道に沿つた家々の庭の木も草も、日々に変化し眼に楽しくなる。今は道の左手の或家に咲く三本の白木蓮の木が美しい。白く厚い花片は天に向つて開き、花は一つ一つが独り立ちを主張して咲いている。

大きな花だ。

昭和二十八年の五月、歌舞伎座の舞台にも、一杯に、あでやかに、この花は咲いていた。

梅幸の木蘭と寺侍の先代海老蔵が、秋篠寺の境内で、木蘭物語を舞い演じた。

作 川田 順

美術 山口 蓬春

装置 勅使河原 蒼風

「……………」

木蘭の花は盛りにて袖に散りくるけはいなし

……………

この木蘭の木かげにて待つと契りし殿御ゆえ

私さまへも憚らず

わたしや崩れて泣くばかり

……………

清元の透み徹つた声にのつて、舞台の美男美女は、それはそれは美しく、未だ恋を知らない少女の胸にも切なく響き、青春の甘美さを夢みさせ、あの情熱の恋を貫き通した原作者の、恋愛への熱情が深く心を打ちときめかせた。

現実の世界では不自由も多く、何彼と我慢を強いられることの多い世の中ではあつたが、夢を追う世界は広く、幻を描いて心の糧にする自由は大きかつた。

舞台の天井から下り、両袖から咲き誇つたあの大きく真白な木蘭の花々は、原作者の美への憧れと恋愛についてのエッセイと共にパンフレットに残っている。

今、白木蓮を眺めながら歩く私の顔は、年齢に応わしく斑点だらけで黒く、無表情で翳りが深い。美しいものを美しいと感じる感情は失いたくないのだが、心のざらつきには時に寂然となる。何とも思はず耳にしていたあの時の前奏の

「……………」

この美しき一瞬を

久遠と誰れか思ふらん。

……………

朝露のしたたり落ちるようなみずくしい紫色、まろやかな優しい形、その中で、がくについているとげが、全体を、きりつとひきしめています。私は、そんな茄子を描いてみたいものだ、いつも思っています。

いつの年だったか、茄子畑に魅せられて、百号の制作に励んでいた若者の姿が思い出されます。

季節を問わず一年中茄子も店頭にあります、何といてもおいしいのは、旬の夏、専ら安い茄子を、焼く、蒸す、炒める、揚げる、煮る、漬けると、さまざまな形で、毎日のように食膳にそえます。家族は、喜んで夏の味を楽しんでいます。間もなく出盛りも終わり、秋茄子となります。『嫁に食わすな秋茄子』などと昔から言われますが、大事な嫁を思う心からか、或は、姑の嫁を憎む気持ちが表れたものでしょうか。

おいしい秋茄子も、私は、食卓に供しましょう。

……………

【表紙絵の言葉】

茄子 子 神戸市 平田恵美子



# ある青春

(37)

大阪市 津 堂 健 治

昭和廿年五月下旬から、一兵卒の津堂健治は宮崎県高千穂峯山麓にあつた。

五月廿×日

終日兵舎造り、樹木を伐採し大工出身の指図で汗を流す。周囲は殆んど杉林だから屋根は杉皮葺、夕刻には深い穴を掘つたがそれが圃である。

五月廿×日

建設労働が終り、日中は訓練が始まる。特に丘を利用する匍匐前進・散開はきびしい。夜は保革油(軍靴を磨く油)を灯して教科に励む。電気・水道は勿論無く、起き伏しは戦線に等しい。

六月×日

日課は日増しに激しく、本日から幹甲志願兵の猛訓練だが、丸岡昌作の精気の無さが気になる。健治も日中の演習、暗い夜の眠い目をこすつての学習(健治は兵科と薬学科の両方できつい)には苦勞する。沖繩出身の下地は乙幹志願で幾分か楽らしい。

六月×日

数日前から兵舎内でこそそそしてたのが今朝は大騒ぎとなつた。威張り屋のS班長の毛布から虱が見つかり、怒鳴りちらして全員を並ばさせたが張本人はBだつた。彼の頭をみて驚く、毛髪の中に居るわ居るわ呆れる程。早速、頭を剃る事になったが鏡など無い。近くの小川に頭を映してやつたが何ヶ所も傷つけケチ

ヤツプをかぶつた有様、衣類も熱湯に浸したが、此の処置は後の祭り。班長だけでなく全員虱にとりつかれてゐた。湿気の多い宮崎の山岳地はじつとりする。そこで晴天に屢々毛布を干したが、Bの毛布が廻り廻つて全員感染(?)したものである。

六月十×日

梅雨期だが、当地のは東京や関西の降り方と違い全く男性的なのだ。沛然と落下する雨は素人造りの兵舎内を濡らす、慈雨でもあるのは終日学課と休養に過せるからだ。

慰問文が届く。Cは読み書きが出来ず、読んで呉れとせがむのに健治は応じる。文面はたどたどしく判読に苦しんだが、彼は目を輝かし熱心に聞いている。Cは子供の頃からサアカス団の芸人で、手紙の主は妻君だがアクロバットの踊子、赤ん坊が生まれたので今は切符のもぎりをやつてるとか便箋の一枚に小さな掌が型どられていた。

「おうおう」  
それに見るCの口から感歎が洩れた。  
六月十×日  
午前中は一般兵と合同訓練、午後は甲幹志願者だけで猛訓。散開は山肌を上へ上へと駆けるのだから心臓の鼓動が止まりそう、丸岡も同じ分隊だが歯を喰いしばって頑張っている。夕刻、雨が降

りだし山肌が泥土となった。洗濯に苦勞しそうだ。  
夜、S班長が試験官になり教本の口頭テストだが、答えられぬ者は不寝番に立たされる。今夜もCはそこにはいつて居た。

六月十×日

九州方面司令官が近日査閲に来る由、その故か演習は凄くきつい。命令伝達でヘマをやつたのが数名あり、顔が變形する程殴られる。落伍者が急にふえたが、丸岡は蒼白な面できよく頑張っている。

六月廿×日

司令官の査閲、中年の小隊長はあがり気味で指揮をする声がふるえている。演習は成績不良の者を参加させず、殆んどが学徒兵だったが丸岡の姿は見えなかつた。

× × ×

山麓の兵舎生活も一ヶ月、ある意味では戦争を忘れた日々だ。警報は一度も耳にせず空襲の惨状など遠い別世界に思えたが、訓練は過酷な程で甲幹志願者の形相は特にけわしい。

七月×日

甲幹志望の予備門が此の日決まつた。一般兵科は約三割だが薬剤官の志望は健治だけだ。兵科志望が多いのに比べ健治は僥倖だったが未だ前途は多難、若い陸士出の教官に今日から鍛えられる。そのM中尉は紅顔の美男子で廿三才、女性的な動作、笑えば幼さが残り、学徒兵とあまり変らない。が指揮ぶりは容赦がなく、甘い印象を候補生達は直ちにふり払はねばならなかつた。

十日間徹底したスパルタ演習に若者達

は耐えに耐えたのだが、或る日、小休止の折、彼は少年の様な笑みを浮かべ「皆大丈夫か」と搞うのに「大丈夫であります」と答えた。実はもうクタクタなのだが、兄貴の様な態度に懐かしさを感じてだ。「空威張は止せよ、こつちが参りそうだし」

若い将校のおどけるのに皆哄笑し、気持が和む。  
「いいか貴様達」と言つて彼は草原に坐る。

「俺は貴様達、候補生」の教育を仰せつかつてきたが、その後は戦地へ征く予定だ。だからここでの期間は平穏な時だ。俺は陸士出の職業軍人だが、学生生活も経験したし貴様達同様の若者だ。貴様達の悩みも判っているつもりだから、協力してくれんと困る。どうだ、質問は無い」と皆を見廻す。すると一人が立ち上つた。

「中尉殿は戦況をどう思われますか」  
暫らく彼の顔をみつめたMは真顔になり、

「お前の意見はないのか」  
「よく判らぬのであります」  
「成程、では今度の戦争の目的は何だ」

「世界平和の為であります」  
「他に誰か答えられるか」

そこで次々に帝国主義の確立とか、八紘一宇だとかアジア共栄圏の為の聖戦と述べる。

「すると貴様達は学校で教わつた事を全面的に肯定してるのだな」

候補生達は黙りこんだがMは軽蔑してるのではないかと思える妙な目つきになる。

健治は小学生の頃、大人達は信頼出来

るもの、殊に教師のそれは絶対だと思つた。中学生になつてもそれは持続された

が軍事教練を習う時期から配属将校という。大人が変に映り、他の教師の彼に對する態度が卑屈なのをみせつけられると信頼度がぐらついた。青年になると、それは同情に移行し、人生の業と悟る。だから彼等の話す事、書く事、行動する事の実態との差異を要心深くセレクトするようになつた。

信頼は殆んど消えたが示唆して呉れるものは無数にあり、人生の先輩として尊敬する事で納得した。

健治は幾度か戦争の虚しさを体験してきた。かつて国家の爲、身をささげるのを至純と感じた頃もあったのに、今は死を恐れる意識がこれ程強いものかと痛感している。

が兵士となつた身ではそれを超えた祖国愛の觀念は受けとめたい。でなければ勇猛心も闘志も軍律も恐ろしくて迂散して、大人に残された尊敬さえ空しい幻影になり果てよう。

「戦争の目的は……」

軍用煙草を喫いた中尉は起立し、ピシッと長靴の踵をあわせる。

「要するに敵を粉砕する、それだけだ」

「戦況云々ともつてまわつた質問はするいゾ！戦争に勝てるかと聞いているのだから、とにかく勝つ信念を持たねばならん。仆される前に仆すのだ。その決意が無ければ一体何の爲に我々は戦争に参加している。まどろこしい理由や論理なんか一切不要だろ！」

「よく判りました」

皆は不動の姿勢で声を揃えたと中尉は制した。

「いやいいさ、それより俺も含めて皆若いのだ。性の悩みは感じぬのかい？」

「この中で経験者は手をあげてみる」

「おおい何の経験だなんて愚問はするな、さあ手をあげろ！」

すると健治の周囲から、バラバラ手があがるが、数える程しか居ない。

「本当か、そんな筈ないと思うゾ。皆もっと正直になれよ」

また少し手がふえたが「未だ居るだろ」とくどく併し陽気に催促すると、隣の師範生も応じた。彼は健治より年下の筈だが、それを見ると妙な劣等意識が働き、慌てて健治も拳手をしたものだ。そして心の隅で再び「紫衣の女性」の揺らぐのを想つたが虚偽のこんな表示はすべきでなかつた。

七月十×日  
南国の夏、全く暑い一日だった。  
M中尉は候補生に人気がある。訓練は厳しいが日頃はフランクにに応じてくれ、兵舎内の粗野な古兵達とは違つていた。が此の日は全く異様だったのである。

最初の敬礼にして三度やり直され、点呼の発声が悪いと幾度も「もとい！」をかけられる。表情も常になくけわしい。

いつもの演習地点まで二杆の早駆け、息つく暇もなく匍匐前進、数名の隊員が脚絆をずらしたが「そのまは何だ！」と中尉の手が彼等の頬を打つ。昼までに

一度はある小休止もなく、灼けつく陽光の下、軍衣は汗でびっしり、候補生は私語する気力もない。

大豆と高粱の粗末な昼食後、健治はE（師範生で一番張切つていた男だ）と一緒に仆れる様な恰好だった。宮崎の太陽はキラキラと照り、首筋から胸へ、背中へと浴びた様な汗がふきだが拭う動作も億劫だ。

「畜生！甲幹なんて止せば良かった。乙幹で辛棒しとくんやった」

Eの喘ぎは実感で、今日の訓練があと数日も続くなら死んだ方が良い位だ。下地は「乙幹生」だが、元氣そうなのを知つていたから後悔さえ湧く。

Eは暑さに耐えかね軍衣を脱いで禪一つの素裸になつたが、回りの連中もそうした恰好の者が居て健治も脚絆をとり襦袢を脱ごうとしていた矢先、いきなり「緊急集合！」の合図がかかる。食後は大休止で未だ時間はかなりある筈だから泡をくう有様だ。

「ぐずぐずせず整列しろ！」  
M教官の叱声に健治達は走つた。急いで軍衣を着ようとすると者に中尉の鉄拳がとぶ。脚絆のない健治の頬も一瞬歪んだ。

裸の連中はその尻を軍靴で力一杯蹴りあげられる。

「アッ」声にならぬ呻きがEの口をついた。

「貴様！どうしてそんな恰好をした！」  
「大休止だからであります」  
「では戦地で大休止になつて、突然敵が襲ってきたらそれで戦えるのか！」  
昨日までのM中尉ではなかつた。

「どうだ！」  
教官のEへの詰問は声ではない。まさしく吠えているのだが流石にEは氣丈だ。

「戦います、素手でも戦います」  
「そうか、やれるのだな」  
目は普通でなかつたし、汗が塩をふいた中尉の軍衣は大きく波打つてきた。

「よし、俺が敵だと思つて来い！」  
「は!?……」Eはキョトンとしていた。  
「馬鹿野郎！」教官の手がEの頬を痛烈に打ち、もう滅茶苦茶に打ちのめす。

Eは山肌の地面に匍つたが中尉の高ぶりは激しい。  
「起て！起たんか！」

裸の全身土まみれのEはよろよろと起き上つたが、唇から血が流れる。  
「悪うございました、お許し下さい」  
その声は悲鳴にちかいものだ。

「判つたんだな」  
中尉は彼の傍を離れ、隊列の中央に來た。  
「今、貴様達にやつた俺の行為はゆき過ぎだったかも知れない。文句を言いたい奴は言つてもいい。だが戦地では一瞬の弛緩も許されぬのだ。今朝はいった情報では、南方の〇〇基地で全員が玉砕散華と通報された……その基地は実は我



々が征く筈の所だったのだ。俺の気持少しは判ってくれるか」  
終りの語調は実に静かだった。

「よく判りました！」

皆口々に叫んだが、彼のやりきれぬ気持はその時点で未だ寂然とせぬのが本音だ。

× × ×

M中尉の教練も温習も、此の日から一本ピンと鉄線がはいった様に鋭くなったが、この日の様な異常さは起こらなくなった。

七月十×日

昨日は快晴だったのに終日温習で兵士達は久しぶりにのんびりし、甘味品(氷砂糖・みかんの缶詰)や煙草の配給がある。食事は常より良くドラム缶の風呂にもはいれた。が、こんな日の後は定まって新しい事態が始まる。起床後の点呼で明日から〇〇方面へ向って行軍するから兵舎の片づけをせよと告げられる。その後、手紙が届けられた。疎開先の母の便りだが、別にとりたてた知らせは無い。  
「身体に気をつけよ」が便箋一枚の文面に三度繰返され、父の病気にふれてないのが却って気懸り。行軍に備え早目の就寝ラッパが鳴る。健治の背囊は薬学書が数冊はいっているで他の者より重い。

翌日——

長い行列が兵舎を去ってゆく。アフリカ原住民の生活と大差ない兵舎だったがそれなりの感傷はある。が、それをかき消すように進行が早く、先頭のラッパは遙かの先だ。

昼前に「小林」の街に着き、別部隊と

合流。大休止では久しぶりの街の装いを倦かず眺め、もんぺ姿の若い女性を見つけると兵の瞳は輝くのだが「野営ぐらし」の二ヶ月間、異性を見る機会は今全く無かったのだ。

大部隊となった隊列は街を抜け山途にかかる。どうやら南下している気配なのは韓国岳や高千穂峯の映る角度で推しはかれるのだが、次の休止で丸岡昌作と出会う。度々の編成替えで久しぶりだがすっかり憔悴して別人の様だ。

七月廿×日

行軍が始まって四日、行動は一定してきた。つまり、昼間は「塹壕掘り」の作業、夜は行軍、そして夜明けから午前中睡眠の繰返しである。が昨夜来の雨で此の日程が如何に難渋かを知る。雨の露営は代しい。塹壕掘りは泥人形になり、行軍は沼の中を進むよう。軍靴は水をふくんで重く、山肌の道なき途は膝までぬめりこむ。夏でも山の夜風は冷めた。まして濡れ鼠の身はやり場もなく襦袢を透った雨滴は腋下を流れて、ソクツとすする冷めたさだが素肌のすべてがそうなるともう気にならぬ。併し下帯の湿めりはどうにも不快だ。小休止には雨滴のかからぬ所を捜す。晴天の有難さが痛切だ。

× × ×

「都城市」で梅雨期がすっかり明け、空は入道雲が浮んで目を細めたが、市街の建物も異様に歪形していてこの地もボーイングの跳梁を許していたのが判る。街の人の往来は笑顔を忘れた様で健治達兵士の群に一瞥もせず、かつて「飯野」に到達する列車の停車する駅々では附近の

人達が「兵隊さん、頑張って！」と手をふり、或る駅では、もぎたての胡瓜に塩をつけたのを渡して呉れたものだが……

この夜は街はずれの国民学校に泊る。

久しぶりに屋根のある建物で眠るのだが、狭い教室の板間にごろ寝だ。けれど背面を無防備に横たえられとは何と泰らかな休息だろう。それと便所だ。九州へ来て今日の日まで、生理的排泄は常に野外だったから此の個室はゆったりと孤独を楽しませて呉れる。戸を内から閉めると自由が満喫出来る。立ち上ると目の位置が小窓で開けると街の灯が映る。星も見える。露営で仰ぐ夜空とは小窓を透すだけですっかり違って見えるのだが健治は突然声をあげたくなった。

「お父さん、僕はここに居ます、元気で生きて居るのです。だからお父さんも頑張って僕の還るのを待って下さい！」涙があふれて止まらない。

七月廿×日  
未明、志布志に到着。蒼い海は久しぶりで望郷の念にかられる。此処は鹿児島県つまり本土の最前線だが、行軍は食欲に続いて落伍者が急増する。「貴様達は候補生だ、古手の補充兵とは違う苦だから陣をゆるめるな！」とM中尉は活をいれるが消耗は激しい。健治の体調も危なしく膝関節に重みを感じが「俺もそうだ」と訊える連中も多い

八月×日

垂水を過ぎ櫻島の見える海潟に露営、ここで候補生は兵科と技術科に分けられる。一般兵も半数が〇地方方面に移動、Cとも別れた。健治は此の日から初老の軍医

の下で医務行為に従ったが、京都で開業していた由、伯父の名を告げるとあの人なら懇意だったと懐かしがる。

八月×日

「鹿屋」ここで健治は薬剂官の教科試験を受ける。薬理学、衛生、無機化学、調剤学あの重い叢書を担いで歩いた甲斐あったのだが、やり終えると得体の知れぬ虚無——受験する行為は未来を得る証だが実際は何のpromissも無い。何の為に用紙に書き綴ったのか、単に自分の頭脳に残った母校の「想い」を記述したにすぎぬ——を感じた。

八月×日

津堂健治の軍衣に兵長の章がつく。順当なら一ヶ月後は大阪へ戻り、准尉待遇だが……

八月十×日

隊が亦、分裂した。下地やBの居た前部隊は海沿いに、健治の属する部隊は海を背に山峡に向うのだが、健治は衛生部付となり、軍用車に乗せられたから苦痛は弱まった。だが小休止の都度、疲労困憊した兵の処置で息つく暇もない。丸岡昌作の失った肩もみえ「だるくて堪らん」と訴える。眼は充血して力が無く、軍医も首をかきしめるのだが、彼を含めた数名の衰弱者は十軒先のK町の病院へ行かせる事になった。

K町に抜ける行程まで約一時間、彼の身が案じられたがその地点がやっときた。夕景の峠、星は遠く巨木の森が下に長い。「もう大丈夫だ、ゆっくり療養しろよ」栄養注射をし、すっかり骨ばった肩にさわる。

「有難う、けど俺はあかん」

信じられぬ程に痩せ細った長身を力なく敬礼して、「お世話になりました」努めて笑いを残そうとする生まじめさに健治は黙って握手する。丸岡達は難波の強行軍から解放されたが、行く先は設備の不完全な辺境の療養所だ。

「しっかりと生きるんやでー神戸で会おう」此の言葉に丸岡昌作は頷き、一団の最後部をゆっくり膝を落して行く。彼は一度だけふりかえり、月光に浮かぶ稜線に高く手がゆらいだが、あの充血した瞳は濡れ、それを天の星がはいったのだろう。

黒々したシルエツトは徐々に小さく、見送る者の視界から遠ざかった。(続く)

## 【お便り】

仙台市

高宮 みか

わいふ135号お送り下さりどうも有難う。わいふ関西版の最後の最後になって、原稿をお送りするのも、いままでの無責任さの罪ほろぼしのつもりか、誠に申し訳ないことです。

わいふが東京へその本拠を引越すとのこと、先輩の亀山さん達が、それを引きつぐとのこと、なにか物足りない、どこか物足りないとき離れて来たわいふが、少々身近かな関東にやって来るなら、こいらで私も、その物足りなさに挑戦してみようと思う。

東北のわいふ会員の方々集合!!  
おたよりお待ちしております。

仙台市荒巻滝道山四一(四四五

電話 〇三三六―四三三九

## 創作童話

### くま先生と 子どもたち



大阪市 杉本 輝子

(一) えんそく

四月。さくらの花とともにくま先生は、すみれがおかに てんにんしてきました。一年生をうけもつことになりました。さくら町のぶん校は五十人たらずの子どもたち。二むねの校しや。それから、ことうががあります。このことうは三月にできたばかりです。いままでは、入学式やきねんの式をするときは、青空でやっていましたが、村いちばんの長者であり、この学校の校長である、ライオン先生がきふしてくださったものです。そして、小使のおじさん、もん太じいさんがあずかる小使室。それから、ふたつみつ、なやがあります。

「ことしの一年生は十人。みんなげんきのいい子ばかりでおしえががあるわい」と、くま先生はひとりつぶやきました。さくらの花もちって、空にこいがおよくころ、すみれがおか校では、えんそくがあります。うら山にのぼるんです。ざつと、四きろはあるでしょう。これをおうふくするので、八きろ。むかしふうにいえば、二りあります。くま先生は、前のばんから、うれしくてうれしくてねむれませんでした。なぜ

かといえは、くま先生は、いままで、都会のゴミゴミとしたところの学校にいたからです。スモッグやハイキガスがいっぱいのところだったもんですから。このすみれがおかは、空気はいいし、春、夏、秋、冬と、うつりかわりがさいここのところ。都会の子どもたちにあじわえない、すみきった空と空気。あの子たちにもいちどこの空気をすわせてやりたいものとおもいました。

夏休みになれば、いっぺん都会の学校へこの空気を大きなビニールぶくろにいれてもっていつてやろう、そしてオタマジヤクシやいろんな虫も、もっていつてやろうとおもいました。

「ほんとにきょうは日本ばれだなあ」と、くま先生は空をみあげていました。「先生、くま先生。おはようございます」ミミ子先生の元気なこえに われにかえったくま先生は「ウオース」と、こたえました。

「きょうは先生、ほんとにいい日よりよかったですわねーえ」

ミミ子先生は、長いみみをビクンビクンとうごかして、目をほそめました。ミミ子先生のごきげんのよいときのくせん

です。

くま先生も、ドンドン、こぶしで大きなむねをたたきました。ほんとうに、このふたりの先生のくせはおもしろいです。八時になりました。子どもたちはあつまりました。一年生は九人。あと一人のピヨ子ちゃん、せつかつたのしみにしていた、えんそくの日だというのに、もうちやえんになってしまいました。

けさ、はやくふもとのさくら町のびょういんに、入いんしてしまい、くま先生は、さびしそうでした。きょうえんそくからかえつたら、さつそくにおみまいしてあげようとおもいました。

「しゅうごう!!」

「みんなトイレにいったか」

「わすれものはないね」

くま先生がせんとうになって、校門をでるとき、どこかで「クスン、クスン」と、なくこえがします。「オヤッ だれかな」と、おもってみると、いちばんうしろのほうで、ポン太がなっているのです。「こらッ、男のくせに、クスンクスンとなんだッ」

おおきなくま先生のかえで、ポン太は「ウワー」と、なきだしました。

「どうしたんだ! おなかでもないのか!」すこしこえをひくくして、くま先生がたずねますと、

「ウン、おなかいたくない」

「そしたらなんだ」

「あの…ボク…」

「どうしたんだ」

「ハイ、はく、リュックがないの、だからこのナップザック、おにちゃんのだけど、

もってきたの、そしたら、みんなわらうんです」

「みんな、どうしてだ」

みんなは「……しゅん」としてしまいました。

「いい子だ、いい子だ。ナツザックだつていいんだよ」と、くま先生はボン太のあたまをなげながらつづけます。

「えんそくには、都会の子だつて、ナツザックをみんなもつていくんだよ。なにもはずかしいことなんてないさ」

ボン太は、そういわれると、すこしきぶんもはれて、いつもの元気なボン太になりました。

くま先生は「はれッ 先生のも大きなナツザックだろ。こうしてホイッとかつぐんだ」

ボン太も、くま先生にまねて、ホイッと、じぶんのナツザックをかたにかつぎました。

「イカスよ。ボン太ちゃん」

ミミ子先生は、ほん太のかたを「ポー」と、たたいたので、ボン太はうれしくなつて「クウツクウツ」と、わらいました。

みんなはサクサクと、土をふんで山みちをのぼります。「ホイッ、ホイッ、ホイッ」と、ボン太のものばります。

山は日本ばれ。雲ひとつもない空に、お日さまがサンサンとみんなをあたたためてくださいます。どれだけのぼつたかな。すこし、からだがあつくなつてあせができてみたい。

くま先生は、

「すこしこらでやすんでいきましよう

か、ミミ子先生」

「そうすわねーえ。あの木のかげへいきましよう。くま先生」

みんなは、大きな木のかげでやすみました。

「先生はらへつた」ボン太です。

「まあまあ、おぎようぎがわるいこと。まだまだおひるはまだですよ。あの山のてっぺんまでゆくと、十二時だからね」

「つまらないの」ボン太はそういって、ドスンとすわりこんでしまいました。

しろ子ちゃんは、「先生、ミミ子先生、クロバーの花がいっぱいきれいよ」そういつたので、ミミ子先生がそのほうをみると、ほんとに、クロバーの花がさきみだれていました。

ミミ子先生は、

「しろ子ちゃん、いらっしやい。ネックレスつくつてあげる」

そういつて、花をつくりはじめました。しろ子ちゃんも、「わたしもする」といつて、花をつくりはじめました。

「ホウッ。うつくしいですね。ミミ子先生は、きようですな」

「まあ、それほどでも……。くま先生、女の子というものは、みんな、こんなことしてたのしんですのよ。わたしも、小さいころはとて、とても……」

ネックレスをかけた女の子。かんむりをかぶつた女の子。女の子は、うれしうに、キャツキャツ わらいながら、とてもたのしそうです。

男の子は、つまらんそうなおして、それをみていました。ボン太だけは、ひとりすわつて、いつしうけんめい、花

わをあんています。ほかの男の子がそれにきずきました。

「こらッ。ボン太、女の子みたいに……」

と、なじりました。

くま先生は、みんなを、またいさめなくてはなりません。大きな花わができて、ボン太は、さいしょ、くま先生のくびにかけました。それから、小さい花わは、ミミ子先生のみみにつけました。ボン太という子どもは、とても、きのやさしい子なんです。

「ボン太くん、ありがとう」と、くま先生も、ミミ子先生もこえをそろえていいました。

「エへへ……」

ボン太はわらいます。

「アハハハ……」

みんなもわらいます。

「しゅっぱーッ！」

くま先生はせんとくに、またあるきだしました。

とちゆうに、あまり大きくない池があつて、おじさんがつりいとをたれていました。

「あたりますかな」

くま先生は、そういつてのぞきこんでいきます。みんなもとまつてしまいました。



は、あごをなげながら、ドンドンと、むねたたきです。

「先生。ボクらもこんどつりいともつてこようねえ」と、男の子はがやかと、さわがしくなりました。

おじさんは、こまつたかおになりました。ミミ子先生は、くま先生のおしりをちよつとつねりました。くま先生は、「ウン、ウン」と、うなずいて、「さあ、みんないつきにあつてつべんまで、のぼろぞ」そういつて、スタスタと、あるきだしました。

みんなは あわて、タッタタツと、つべんまでのぼります。お山のてっぺんまで、やつとつくと、フツ、フツ、フツ、といきをとのえているくま先生に、につこりとミミ子先生は、わらいました。

「さきほどは、えらいとこみせてしまつて」

「ホホホ、それほど……」

ミミ子先生は、たのしうにわらいました。

「みんなどうだッ、けしきがいいだらう」

一年生は、はじめてのえんそくだもの、お父さんやお母さんは、でかせぎのおおいこの村です。あまりのけしきのうつくしさに、へんじがでなくて、大きな目をみはつています。

「あッ、先生！ 学校がみえる」

ボン太です。スツとんきょうなこえをはいあげました。

「うわーッ。ほんとだ、ほんとだ」

みんなもうれしくつて「ウワイ」と、かんせいをあげました。

「よかった、よかったほんとうに」

さまがくま先生のメガネを光らせたのではなく、なみだがいっぱいのくま先生の目でした。

おひるのおべんとをたべて、二時かんほど、お山のてっぺんでうたをうたいます。ホークダンスもやりました。おにごっこもやりました。たのしく、くま先生と、子どもたちは、おはなしをしてあそびました。

お山をおりるときは、のぼりほどづらくありませんでした。トットトットと、ひとりであしがふもとにおりてゆくのです。あさはあれほど、日本ばれだったのに、風が、きゆうにでてきて、雲もどんだんふえてきて、おまけに雨がポツポツとふりだしました。

「まあ、にくらしい、雨よ。もうすこしわたしたちが家にかえるまでふらないで」  
ミミ子先生は、手をあわせ、山のかみにいのりました。でもだめ。さあーと、ふりだしてきました。

子どもたちは、ビニールのふくろをかぶりしました。フロシキをかたにかぶりしました。みんなはいそいでお山をかけおりました。お山は、しぐれるものです。

くま先生と子どもたちは、お山をおりて、かえりは電しゃで、かえることにしました。くま先生は、キップをかって、かいさつへ入ります。みんなもぞろぞろ入ります。ちょうど、かえりの電車がきたらしいです。

ひぐらしえきから、アネモネえきをすぎて、電車はすみれがおかにむかって、はしります。ガタゴト、ガタゴト、みんなをのせて、はしってゆきます。

## (二)あくる日

きのうのえんそくは、ほんとうにたのしかった。

くま先生はあれから学校にかえって、みんなを、家までおくりつていくそのあとで、さくら町にある、ならびよういんへピョン子ちゃんをおみまいにいったのです。ピョン子ちゃんのもうちようは、かかったので、しゅじゅつもせいこう。くま先生が、おみまいにいったときは、ちゅうしゃがきいていて、ぐつすりとおむつていました。そつとまくらもとに、クローバーの花のネックレスと、くだものかごをおいてかえりました。

ピョン子ちゃんのおかあさんは、とてもよろこんでいられました。

くま先生は、きょうもういちど、びよういんへおみまいにいつてきようと、おもいました。

しぎょうのベルがなったので、本を、こわきにかかえたくま先生は、ガタンとおとをたてて、きょうしつに入ります。くま先生は、からだが大きくて、かみにはあたまをぶつけるし、わきはガラスの戸につかえて、ガタンと大きな音をたてるし、こまつてしまいます。

「きりーっ。れい」いいんちようのヤギくん。かわいひみんなのあたまがペコリ。「おはようございます」と、げんきよくあさのごあいさつができました。

「おはよう、みんなげんきだね」  
くま先生は、そういつて、ずうつときょうしつをみわたします。ピョン子ちゃんをつくえだけが、ひっそりとさびしう。



「きのう、ピョン子ちゃんをおみまいにいつてきました。しゅじゅつがぶじにすみ、ピョン子ちゃんは、げんきでしたよ」

そういつて、目がほそくなりました。「ぼくたちもおみまいにいつていいかい」みんなは、くま先生のごへんじをまちました。

「そうだね。あしたあたりいつてあげなさい。あまりさわがしくないこと……」

「ハーン」「ハーン」

みんなはてをあげて、げんきにへんじをしました。

「さあ、べんきようをはじめるよ。きょうは、どこだったかな」

先生は、本をペラペラめくりました。

「ハーン。五ページ。まことくんがおつかいにいくところでーす」

「そう。ちや、ボン太くんよみなさい」

「まことくんが、おかあさんのかわりにいちばへ、かいものにきました。」

「ハイ、よろしい。よくできました」

くま先生が大きなたでボン太のあたまをなぞてくださったので、ボン太はちよつとはずかしかったけれど、うれしかったです。

みんなもボン太のおをみてニコニコわらっています。

くま先生は、こことしやかいをうけもつてくださいます。

二時間めは「さんすう」。みんなは、さんすうは、あまりすきでないけれど、ミミ子先生がおしえてくださるのですきになりました。わかくてうつくしいミミ子先生がきれいな手をあげて、白いゆびをうごかして、ひい、ふう、みい、と、か

ぞえると、みんなたのしくなつて「ひい、ふう、みい」と、かぞえるのです。

きょうは、ミミ子先生はいつそう美しくみえました。なぜだと、みんなはよくみると、あたらしい水いろのおようぶくのようにでした。むねのところに、ピカピカひかるブローチがとてもよくうつります。

「みんなどうしたの、先生のかお、ポカインとみて」みんなは、こえをかわせて、「オニユー、オニユー」と、さげびました。

「あらあら、まあまあ、ありがとう」

ミミ子先生は、すこしあかくなつたようでした。

「さあ、みんなきょうはおもてへでてみない」

「うれしなあ、うれしなあ」

そういつて、みんなおもてへでました。

ミミ子先生は「さあみんな、あの木はなんぼあるか、かぞえましょう」

「ハーン」

「ひい、ふう、みい……」

みんなは大きなこえでかぞえはじめました。

二十までかぞえられるものは、五十までかぞえられるものは、七十までかぞえられるものは、七人。

五十までかぞえられるものは、二人。

「みんなえらいえらい」

ミミ子先生はそういつて、パチパチとはくしゅをおくりました。

「さあ、みんななんばつてかぞえようね」  
「ハーン」  
みんなは、また、げんきにへんじができました。

「ボン太くん。あのでんせんにとまってるよりはなんのと？」

「ハイ。つばめだよ」

「よろしい。それではね、みんなあのでんせんにとまってるつばめもかぞえようね」

「ひい、ふう、みい」

つばめはみんな、十ばかりいました。

「あッ。いちわとんだ」

「さあ、みんな、あとなんばいるかな」

「九わ」

「そうよかった。よくできましたね」

だから、みんな、ミミ子先生のじかんがすぎなんです。たしさん、ひきざんがもう少しできるからです。

五年生のきょうしつから、くま先生は、みんなのようすをそつとみて、にっこりはえんでいました。

じぎょうのおわりのベルがなって、なごりおしそうにきょうしつに入ってきたみんなは、「たのしかったねーえ。またあしたも、おそとでべんきようがしたいねーえ」と、くちぐちにいいながら、ニコニコしていました。

三時間めは、「ずが」でした。

ずがのじかんは、校長先生がじきききおしえてくださいます。校長先生はてんらんかいにしゅっぱんして入せんされたほんですから、えは、ばつぐんにうまいのです。校長しつには、あぶらえのしやせいがかざってあって、これはみな校長先生のえです。海のエや山をかけたのがあります。海のエは、夏やすみにりようされたときかかれたえなのです。ほんとうに、なみがザブンとかかりそうなえな

んです。ボン太もえが大すぎて、こっそり校長先生のえをみにくるのです。小使のおじさんにいちどしかられたけれど、えがすぎんことはおじさんもしっているのとおおめにみてくれます。ボン太は、校長先生のように、いっしょうけんめいのべんきようをして、てんらんかいに入せんするよう、ゆめをみています。

ずがのじかんは、きのうのえんそくのことをかくのです。

みんなは、ガヤガヤ

がやいながら、えふ

でをうこしています。

「ボン太のえはどんなかな」

「ハイ、ボクは、ネックレス。お花のネックレス」

「へー。ネックレス？」

校長先生はびっくりしたようなかおをして、ねっしんに、ボン太のえをみておられました。

「ほうーなるほど。うーん、いいせんいつとるの」

ボン太はシュウー、シュウー、太いまじくで、せんをかいて、みるみる、くろで、くま先生のできあがり。くま先生のむねのところに、きのうのクローバーの花わがかります。こんどは、きいろで、シュウー、シュウー、ミミ子先生のできあがり。ミミ子先生のみみに小さい花わがはまりました。

「ほう、なかなか、ボン太はうまいもん

だ」

こころのなかでは「ようし、ひとつポ

ン太めをしこんでやりましようかい」、

そういつて、つぶやきました。

ほうかご、みんなのえがはられました。



山のてっぺんから、ふもとの学校をみてかいたもの。つりいとをたれてつりをしていたおじさん。そのよこには、くま先生がたつて、あの、ドン、ドンむねたさのえ。

「うへーえ、まいった、まいった」

そう、つぶやきながらまたのしそに子どもたちのえをながめている、くま先生でした。

学校からかえってきたくま先生は、

「きょうは、どんなおみやげを もって

ゆこう」

そうつぶやきながら、ハタと手をたたき、がようしになにやらかいています。

山と、ふもとの学校。校長先生のようにはいかないけれど、いっしょうけんめいえをかいて、「さてできた、できた」と

そういつて、いそいそと、さくら町のならびよういんへいそぎました。

ピョン子ちゃんはとても元気にしていました。

「先生やっぱりきてくれたの、いまおかあさんと、はなしていたの、どうもありがと」

そういつて、ピョン子ちゃんは、きのうの花わのおれいもいきました。

きょうの山のエはとてもよろこんで、おかあさんに、かべにはってほしいと、たのむでした。

「くま先生、先生はとてえがおじょうずで……」

おかあさんはかんしんして、いつまでも、くま先生のえをながめていました。

「それほどでも、おかあさん。校長先生には、とても、とてもかないませんが」

そういつて、くま先生は、あたまをポリポリポリとかきむしていました。

「ピョン子ちゃん。じゃ、はやくげんきになつてほしい。いっしょに おべんきようをやろうね。ごきげんよう」

そういつて、大きな手をふりながら、すみれがおかにかえっていききました。

### (三)くま先生と子どもたち

くま先生と、子どもたちは、八月の夏やすみに、都会の小学校にやってきました。

「かんげい。すみれがおか校。」

と、かいた、たれまぐの下に、都会の子どもたちは、ズラツとならんでいました。そのにんずうのなんとおおいこと。八百にん。この都会では、まだまだすくない

ほうだということ。この学校も、ひとつ川むこうの学校のぶん校だったのが、どくりつして、八年めだとのこと。

さつそく、くま先生は、大きなビニールのふくろを、つくえの上に、ドサツとおいて、これはすみれがおかにある小川でとれた、オタマジヤクシ。これは、ふな。こい。それから、ゲンゴロウ。水す

まし。と、にこにこしていました。

都会の子どもたちは、いっせいに、かんせいをあげました。

都会の子どもは、虫やオタマジヤクシをかおうとおもっても、高い高い、デパートのおくじょうにいかなければかえないし、オタマジヤクシは五十円。ザリガニなんか百四十円もするのですもの。うれしかったでしょう。くま先生がもってきてくださった、大きなオタマジヤク



シは牛がえるや、とのさまがえるの子どもだつて。いまからもう、うれしくて、うれしくてしようのないよろこびようでした。

この小学校で、くま先生は、十年ほど、きょうべんをとっていたそうです。川むこの本校じだいの先生で、子どもたちは「先生、先生、くま先生」と、おもてでした。

「先生、くま先生、だっこして」と、小さいこえて、あまえている子どもがいました。「はい、うさ子ちゃん。ごきげんよう」

そういつて、かるがると、うさ子ちゃんをだっこした、くま先生は、うさ子ちゃんに、ほおずりました。すみれがおかのピヨ子ちゃん、ねたましくおもうほででした。

あとからきいたのですけれど、このうさ子ちゃん、とてもかわいそうな子どもだったんです。このうさ子ちゃんは、はつけつびようで、学校へ、あまりでてこれないということだったのです。

都会の学校の子どもたちは、みなあおいとおをしていました。ハイキガスやアリユウサンガスでゆうめいなこの街で、しらすしらすのあいだに、わるいガスのため、子どもたちの、はいや、おなかは、まっくろになっているとのことでした。

みんなでうたをうたったり、おどったり、おはなしかいもやりました。夜は、花火大かいとキャンプファイヤーでたのしくあそびました。げんとうも、みせてもらいました。

都会はなんでもあり、ほしいものばかりですけれど、あおじろい、みんなのか

おをみてみると、すみれがおかの子どもたちは、「ぼくたちはいい空気がすえて、毎日けんこうにくらせて、ほんとうにしあわせ」と、つくづく、ありがたさがわかりました。

「らい年は、すみれがおかにどうぞきてください。ぼくらはまっていますから」そういつて、わかれをおしみながら、色とりどりのテープの中を、すみれがおかに、かえっていききました。

でんしやの中で、「きょうのたのしいおもいでをかんそう文にまとめるよう、一年生から六年生まで、夏休みのしゅくだいよ。」くま先生は、みんなに、いいわたししました。



「ああ、だめだ」  
ポン太です。なきけな  
そうで、いまにもなきだしそう。くま先生は、  
「そんなにしんくにならなくていいよ、おもつたとおりかけばいいんだ」

「そういわれたので、しかたなく「ハイ」と、ちいさくへんじをしました。」

くま先生と子どもたちは、おともだちのようでした。そのとおり おともだちです。

くま先生は、きょうだいがおおくて、まんぞくに学校にいけなかったけれど、くがくして、ぶじ大学をでたそうです。いつも、くま先生は、「くるしいときこそ、がんばるのだ」と、口ぐせのようにいわれます。「なにくそ、いまにみろ、と、がんばると、ゆうきがでてきて、なんでもできる」ともはなしていられます。高校じだいのくま先生は、「学校からか

えつてくると、きんじよの子もり、使いはしりも、やったものだ。赤んぼうはかわいくて、ぼくがだいてやると、アハアハ、わらうんだよ」と、うれしくてしようのないような、かおになって はなされま

それから朝はやくおきて、しんぶんはいたつたやつたよ。冬はてがかじかんでつらかった。でも、高校じだい、野きゅうのせんしゅだったので、足やこしをきたえるには、こうかてきめんだつた。」

「でもねえ、ごぜん四時におきるの、つらかつたもんだ」そのとうじのことをおもいだしたのか、しばらく目をとじていられた。

「じきようちゅうに、コックリコやつたときはびっくりした。先生にあてられて、しどろもどろ、これにはまいった、ワハハ」と、ボリボリ、にがわらいしながら、あたまをかきました。

ある日、このすみれがおかに、かなし

いできごとがありました。それは、山へ木をきりだしにいつていた、モン太じいさんのむすこさんが、木の下じきになってしんでしまったことがありました。村はあげてそうだいに、おそ

ぼくが モン太じいさんのむすこになつてあげよう。だからさ、じいさん。むすこだとおもつて……」

それからというものの、モン太じいさんも、くま先生をじぶんのむすこのようにかわいがりし、なにかあると、そうだんにものつてもらうようになったそうです。

学校で やすみじかん、くま先生は、「きのう、モン太じいさんのむすこさんのおこつをひらにいっぱ。みんな、こつあげてしつてるかい」

「先生、よくしらない。」

「ぼくおじいちゃんのおこつをひろつたことあるよ」

子どもたちは、くま先生とおはなしがはずみました。

「……のどぼとけといつて、のどとところのほねが、ちようど、ほとけさんがすわつていられるようなかたちをしているんだよ。それが、しんだとき、やくとときに、そのまますがたでのこつていると、そのものは、じようぶつしているの。だつて、それが、モン太じいさんのむすこさんは、ちやんとそのまますがたんだよ。きつとじようぶつされている。しぬということ

なちいさいなやみも、ばくがそうだんあいてになって、はなしあつていこうじゃないか。

しみじみと、高学年の子どもたちと、はなしあう、くま先生でした。

これから先も、くま先生と子どもたちはいつもお友だち。

× × ×

「くま先生と子どもたち」を書いて

現実にあつた話を書きました。この出来島という所は、50年前は37軒しかない村でした。たんぼと綿畑、唯今通っている43号線は、昭和26年に開通した道路、それまでは神崎川の所で切れていたのです。公園の建つたのは38年頃、広い運河は半分埋められてこの地になっているけれど、団地が建つとか公害センターができるとか未だに建たず、神崎川は堤防が高くなったので、もうつかえる心配もないと思います。時々風の強い日は水門でサイレンが鳴ります。私らが引越して来たときは空襲警報を思つた程でした。

大和田川は昔から詠によまれて有名な所(後日またそのことも書こうと思いましたが)、最近までその橋の名残りが(昔の心齋橋だったといひます)、それが旧梅田街道を通るバスや自動車に害(?)ととり払われてしまいました。元大和田川には、出来島小学校と府営住宅と、二、三の小さな工場が建っています。

小さい頃の私は体が弱かったので、大和田の里(昔は村だった。最近こそ町らしくなったけど)に預けられていたそ

です。5年程前にそれがわかったのです。縁というものは不思議なものです。お世話になった家の名前は父に聞き忘れというよりも、忙しさにいいかげんに聞いていたのだと今悔んでいます。

小学校は神崎川を渡って行かなくてはならないので、草ぼうぼうの大和田川の埋立地にできて以来、現在は立派な学校になりました。その蔭には、諸先生や用務員の方達の努力が実つて桜や梅が見事な花を咲かせるようになったとか。

その学校に川北学校以来の先生がおられました。若かった先生も、もう40才になられるでしょう。「出ものはれものゴメン」と高々と放出される先生をみて、いやらしいと眉をひそめるお母さんもいました。かと言ってあの先生は人間味のあるお人とおしがられるお母さんもしられました。先生も人間だもの。腰の低い先生をみて、先生らしからぬ、もっと威厳を持たなきゃと30代のお母さんは言っていたけれど、私はこんな立派な先生はもう再び現われぬと思っています。

私の20才になる娘の担任だったから、欲目に言うのではありません。娘は北田辺にいた時は「出来ないう子」と思われていたけれど、この先生によつて蘇生ができたと思っています。名前が虎谷先生というので、トラさんトラさんとニックネームで呼ばれていました。

私はだから先生や生徒を、それならばと動物(けもの)を借りて書きおろしました。それに今は小学校はさほどでもないが、中学校になれば外国人問題でケンケンしている時です。だから、先生は(

トラ先生、平等的な先生だったのです。この「くま先生」を読んで異様な思いをされた人もあるので、これを書いた次第です。

くま先生と子どもたち

(一) くま先生と青空

子どもたちと青空

くま先生が手をあげりや  
子どもたちも手をあげる

(二) くま先生はでっかいな

子どもたちは輪になつて

くま先生が鬼となり

子どもたちを追いかける

(三) くま先生と夕焼

子どもたちと夕空

くま先生が指すところ

一番星が輝やくよ

## 編集後記

◎ とりわけ暑かつた今年の夏もようやく過ぎて、さわやかな秋風がたちはじめました。みな様お変わりございませんか。大変遅くなりましたが136号お届けします。

◎ アンケートに御協力いただきました皆様、どうもありがとうございます。回答がまだの方もありますが、一応今回で締切らせていただきます。次号に何らかの形でアンケートのまとめをしてみたいと思っております。

◎ こうしている間にも、東京の和田さん、照井さん、亀山さん達が、着々とわいふ引き継ぎの準備をすすめておられま

す。印刷の方のメドもたつたようで、次号に詳しい御案内が掲載出来ると思います。少部数発行では採算がとれないので、東京方面で、大勢の新会員をつるのにしても、今までの会員の方々も是非ひきつづき会員として残ってほしいという強い御要望がありました。

少々くたびれた関西の編集部とちがつて、やる気十分の生き生きした意欲が、電話口からさえも伝わってくるような感じがしました。

◎ 関西で発行するわいふは次号の137号で最終となります。原稿の〆切は10月20日とさせていただきます。

◎ 宝塚市の辻幸子さんより「国際婦人年のメキシコ集会で発言なさっている斉藤千代さんは、わいふ134号の「わいふさんUターンして」のライターの斉藤千代さんと同一人物なのか。もしそうであればメキシコ集会のもようを知らせる一文を寄稿してほしい」という趣旨のお便りをいただきました。まさしく同一人物です。メキシコ集会のもようは、斉藤さんが発行している「あごら」11号の「メキシコ・キューバ「あごらの旅」第一信」に少し書いて居られますが、婦人公論9月号に詳しく書いていますので、ごらん下さいませ。

◎ この十年余の間、わいふを「暮らしの手帖」等に何度か紹介して下さるなど、あたたかい目で見守って下さった松田道雄氏の奥様が、不運な交通事故で重態だとか——。幸い命はとりとめられたというのですが、一日も早い御快復をお祈りせずには居れません。